前橋市上泉町664－4
前橋市教育委員会文化財保護課

群馬県前橋市

若宮遺跡

宅地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1989

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南に貫流する利根川の清流は「水と緑と詩の町」を潤し、かっては「糸の町」として養蚕製糸で栄えてきました。今人口２８万を擁し生涯教育都市を目指し教育文化・商工業の調和のある街づくりが進められています。若宮遺跡の所在する総社・元総社地区は市中心街地から西北の利根川右岸にあり古来より上野国の中心として古墳時代には数多くの古墳が築かれ奈良時代には国府がおかれ、戦国時代は蒼海城が築かれました。近世には総社城が築かれ天狗岩用水や、五千石堰が開削されるなど、また城下町から宿場町としての役割も果し、約４００年を経た今も宿場の地割が現存しています。戦後昭和３０～４０年代の土地区画整理事業で土地の整備が行われ、大規模工場の誘致が進められるなど、前橋市が消費都市から現在の生産都市への発展に大きく踏出すさきがけとなった地域であます。

この調査は、民間宅地開発事業による宅地造成工事に先がけて埋蔵文化財の緊急発掘調査を実施したものであります。調査では奈良・平安時代の住居跡１４軒、溝３条を確認し、多数の土師器、須恵器等の出土遺物を検出することができました。

この調査に当り安藤紀郎氏、宮下光郎氏をはじめ多くの方々の御理解と御協力により調査報告書が刊行できました。ここに厚く御礼申しあげます。

平成元年10月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　　二瓶益巳

例　　言

1　本書は都市計画法第２９条の開発行為（宅地造成事業実施）の許可に先がけた開発予定地の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、前橋市教育委員会のもとに組織された前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長二瓶益巳）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町２１１－１代表取締役須永眞弘）が実施した。

3　調査担当者　遠藤和夫（前橋市教育委員会文化財保護係主任）
　　新保一美（　　〃　　嘱託）
　　金子正人（スナガ環境測設株式会社専務取締役兼埋文部長）
　　荻野博巳（　　〃　　第一グループチーフ）

4　遺　跡　名　若宮遺跡略称６３Ａ－３９

5　所　在　地　前橋市総社町植野１９１番地他

6　期　　間　発掘調査　平成元年２月１５日～　３月２０日
　　調査整理　平成元年４月１０日～１０月２７日

7　調査面積　１５３５㎡

8　本調査における出土遺物は、前橋市教育委員会で保管している。

9　本書は、スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財発掘調査部が作成に当り、金子正人が編集総括に当り荻野博巳が執筆と遺構トレース、遺物実測を角田朱美、版下作業を鈴木赳夫、作業事務に柴崎信江が当った。

１０　測量計画は須永眞弘（測量士第５２６１４号）が行い、測量を板垣宏、須永嘉明、勝田貞幸樺沢高幸が当った。発掘調査の安全管理は、石島正二が行った。

１１　本調査に際して、多大な御協力戴きました、開発事業者安藤紀郎氏、宮下光郎氏や地元市民の方々、並びに調査及び整理に際して種々と御指導、御助言を賜った各方面の方々に心より感謝申し上げます。

１２　調査に参加した方々（順不同）

白石光男	石川サワ子	山崎勘治	小林康典	小林延寿
近藤充郎	内山恵美子	中川類子	辻みつる	石井千絵

目　　次

序
例言
凡例
目次
第１章　発掘調査に至る経緯……1
第２章　遺跡の立地と環境……2
第３章　調査概要……3
　　１調査方法……3
　　２基本土層……3
第４章　遺構と遺物……4
第５章　まとめ……8
　　出土遺物観察表……10
　　平　面　図……1
　　遺構実測図……1 ～ 8
　　遺物実測図……1 ～ 4
　　図　　版……1 ～ 8

凡　　例

1　遺構の略号

　Ｈ－住居跡　　Ｗ－溝　　Ｓ－集石

2　実測図の縮尺

　全体図S=1/200 住居跡S=1/60　カマドS=1/30　溝・集石S=1/60

　遺物実測図S=1/3

3　周辺図は、国土地理院発行の５万分の１「前橋」を使用した。

4　遺跡の位置の基準

　基準点　Ｂ－１０地点（第Ⅸ系座標　X=46035.00m　Y=-71000.00m ）

　水準点　130.00（前橋市道路基準点ＮＯ３より測定）

　　グリット間隔　　５ m

　　等高線間隔　１０cm

5　土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版基準土色帳」による。

第１章　発掘調査に至る経緯

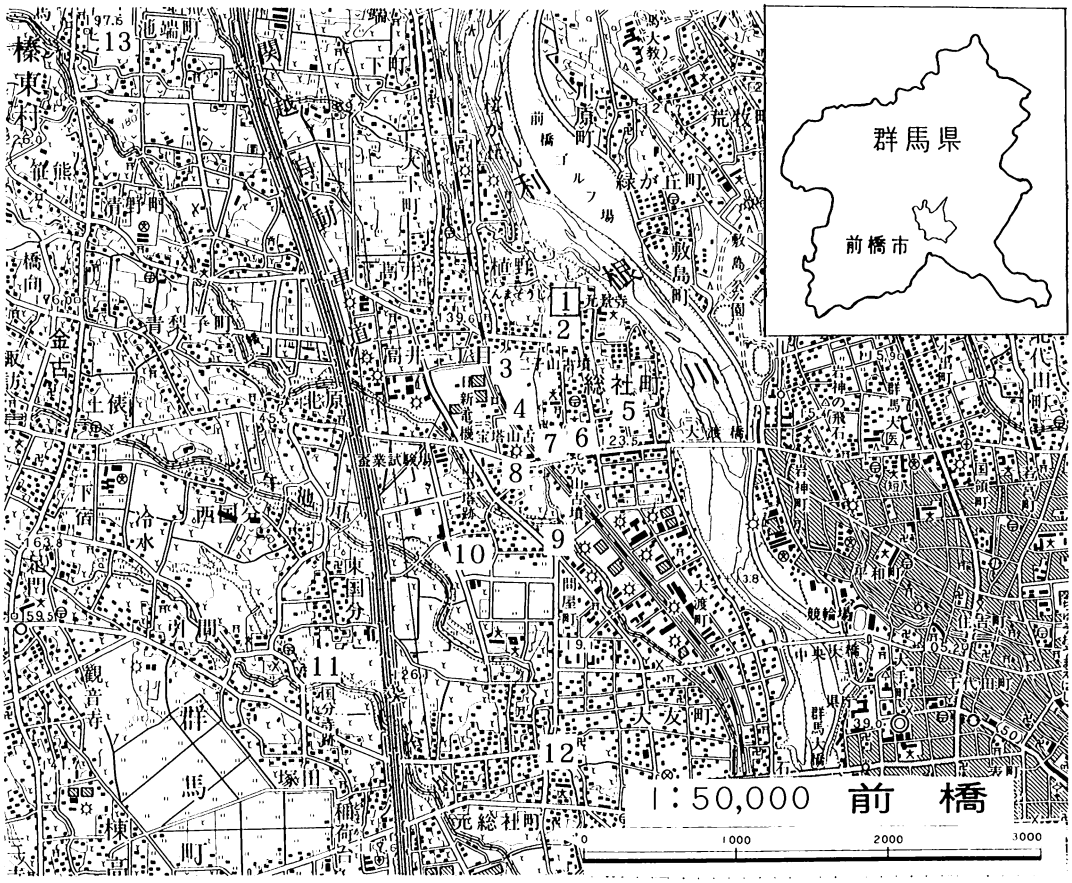
若宮遺跡は、宅地造成工事に伴う都市計画法２９条の開発行為の許可にさきがけ前橋市宅地開発指導要綱（昭和４８年前橋市告示第１０号）第９条（文化財保護）の規定により開発事業者安藤紀郎氏（前橋市総社町総社1492番地）から市教育委員会に事前協議があり、確認調査を行ったところ奈良・平安時代の住居跡及び溝跡を確認した。開発事業者と協議調整のうえ平成元年２月２日より前橋市埋蔵文化財発掘調査団で発掘調査を実施することとなった。

調査経過（調査日誌より）

平成元年２月　２日　作業事務所設置、機材等の搬入
　　１０日　重機にて表土掘削作業開始
　　１４日　水準点（ＢＭ）、基準点座標杭の設置
　　２０日　ジョレン掻き、プラン確認作業開始
　　２１日　グリット杭設定開始
　　２３日　住居跡調査開始（１号～１４号）
　　２７日　写真撮影開始
　　住居跡ナンバーつけ
　　住居跡、溝、平面、断面図の測量開始
　　２８日　カマド、集石等の調査開始
　３月　１日　住居跡写真撮影
　　２日　遺物上げ、全体平面図Ｓ＝１：２００作成開始
　　９日　集石遺物上げ開始
　　１３日　小溝、貯蔵穴調査開始
　　１５日　カマド完掘
　　１９日　全体遺物上げ、全体断面図標高入れ（測量）
　　２０日　遺跡全体空中写真撮影、若宮遺跡調査終了
　４月１０日　整理業務開始
１０月２７日　整理業務完了

第２章　遺跡の立地と環境

若宮遺跡が所在する前橋市総社町植野１９１番地は、ＪＲ上越線群馬総社駅より東南４００m地点である。榛名山東西麓に広がる火山傾斜面が終り前橋台地が東南に大きく拡がり始る。これに沿って南へ流下する滝川（天狗岩用水）は、前橋台地の農業用水路として開削され、今は一級河川として管理されている。この河川の左岸に位置する遺跡である。遺跡から東へ３００m程に利根川が南下している。周辺には総社二子山古墳を始めとする数多くの古墳が点在し、近世では勝山城、総社城、元景寺、天狗岩用水、五千石用水など、貴重な遺跡や旧跡が集中する地域である。



第1図　周辺の遺跡

①若宮遺跡　②稲荷山古墳　③二子山古墳　④愛宕山古墳　⑤遠見山古墳　⑥蛇穴山古墳　⑦宝塔山古墳　⑧村東遺跡　⑨昌楽寺向遺跡　⑩山王廃寺跡　⑪国分寺中間地域遺跡　⑫国府推定地域　⑬清里陣場遺跡

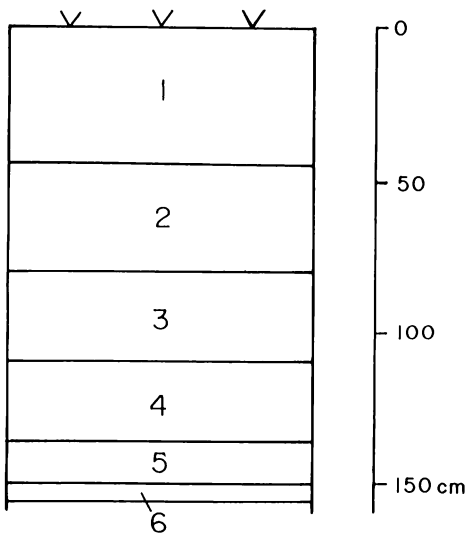
第３章　調査の概要

１　調査の方法

開発事業者の調査依頼を受けて市教育委員会が、トレンチ法で試掘調査を行った。試掘調査は調査区域の中央部東西方向にトレンチを入れ住居跡、溝跡、土師器、須恵器等の遺構遺物を確認した。前橋市埋蔵文化財発掘調査団が調査主体となり平成元年２月２日から発掘調査を実施することになった。調査は試掘トレンチを中心に、表土を５０～６０cmの間で機械（バックホウ）排土によるプラン確認から発掘調査に入った。

調査の基準測量（BM）をＴＰ１３０．００m に定め、Ｂ－０地点の座標値を第Ⅸ系座標Ｘ＝４６０３５．００m Ｙ＝－７１０５０．００m ・Ｂ－１０地点をＸ＝４６０３５．００m Ｙ＝－７１０００．００m に測定し、これを基準として調査区を北西隅より緯線（X）をＡ・Ｂ・Ｃ・・・、経線（Y）を０・１・２・・・とする５m グリットを設定した。溝跡は小トレンチを設け方向、深さ、幅等を確認した。住居跡は、カマド焼土範囲にベルトを設け土層観察を行った。カマド、貯蔵穴は、半裁して土層観察調査を行った。出土遺物は図面に記録後取り上げた。表土（耕作土）中の遺物はグリット毎に表採とした。住居跡、土壙などの遺構に流れ込んだ遺物は遺構毎の一括として取り上げた。写真は、白黒、リバーサルフィルムで撮影記録した。

２　基本土層



基本土層

１層　耕作土
２層　褐色土粘性あり
３層　ローム層
４層　灰褐色土粗砂粒を含む
５層　灰褐色土
６層　灰白色粘土層

第２図　基本土層

第４章　遺構と遺物

１　遺　構

１号住居跡（第４図、図版１）

位置は調査区西側のＢ－２・３、Ｃ－２・３グリットに所在する。形状は南北３．９ｍ 東西３．９ｍ の隅丸の正方形を呈する。壁は、確認面から２１cm掘り込んで床面に達し、床面積は１４．２１m²を測る。柱穴、壁溝、貯蔵穴は、確認されなかった。住居跡の主軸はＥ－２°－Ｓである。覆土は褐色を呈している。流れ込んだと思われる埴輪や羽釜片がカマド付近より出土している。第１層に浅間Ｂ軽石が多量に堆積している。

２号住居跡（第５図、図版１）

位置は調査区北西のＢ－４・５、Ｃ－４・５グリットに所在する。形状は南北４．３ｍ 東西３．８ｍ の隅丸の長方形を呈する。壁は確認面から７cm前後掘り込んで床面に達し床面積は１４．３９cm² を測る。柱穴、壁溝は確認されず、カマド右側の貯蔵穴は長円形６５×５５cm深さ２５cmである。住居跡の主軸はＮ－９０°－Ｅである。覆土は褐色を呈している。カマドは東壁中央部やや南寄りに位置し、右袖は住居内に張出し袖石、燃焼部、煙道部の残存状態が良かった。遺物は全般に土師質の坏や土釜などの破片が多く見られる。また南西寄りの床面にわずかな焼土の広がりがあり、掘り下げると灰釉埦や羽釜などが出土し、重複住居跡の可能性が考えられたがプランの確認はできなかった。

３号住居跡（第７図、図版２）

位置は調査区の北壁Ａ－７グリット（調査区域外）に所在する。住居跡プランの大半が調査区域外に在り、４号住との重複により確認することが出来なかった。僅かにカマドの一部と思われる燃焼範囲を確認した。

４号住居跡（第７図、図版２）

位置は調査区の北側Ｂ－６・７グリットに所在する。３号住居跡と一部重複するが新旧関係は不明である。住居跡外郭線の一部が不明良である。床面は確認面から６cm掘り込んだ深さで確認した。柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の覆土は暗褐色を呈している。カマドは東壁にあり袖石を配した燃焼部と煙道部から成り、燃焼部の補強に使われたと思われる石が出土している。住居跡（破線部）はカマドの位置、遺物の出土状況、床面の湿潤状況などを勘案した

もので新旧関係は不明である。住居跡の主軸はＥ－１３°－Ｓである。遺物は羽釜、埦、甕などの破片が出土している。

５号住居跡（第８図、図版２）

位置は調査区の北側Ｂ－８グリットに所在する。一部調査区域外である。形状は東西３．５m南北は区域外のため不明である。南側の東西の隅は丸く北側の東西の縁は区域外で不明である。全体に方形を呈している。壁は、確認面から４cm掘り込んで床面に達し、柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸はＮ－８０°－Ｅである。覆土は暗褐色を呈している。カマドは東壁の中央部やや南寄りに在り、残存状態が悪く、焼土範囲を確認したにとどまった。遺物は埦、甕、灰釉陶器、羽釜など数点が出土している。

６号住居跡（第９図、図版２）

位置は調査区の北東隅Ａ－９、Ｂ－９グリットに所在する。住居跡の一部は調査区域外であるため明確さを欠くが、形状は東西２．９m、南北の長さは不明。南側東西の角が隅丸の方形を呈する。壁は確認面から８cm掘り下げて床面に達し、柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認されなかった。住居跡の主軸はＮ－６４°－Ｅである。覆土は、褐色を呈している。カマドは、東壁中央部に位置し、両袖には方形の凝灰岩の加工石が使用されていた。遺物は埦、甕等の破片が出土している。

７号住居跡（第１０図、図版２）

位置は調査区の東側Ｂ－９・１０、Ｃ－９・１０グリットに所在する。一部撹乱されている。形状は南北４．７m、東西３．８m の隅丸長方形を呈する。壁は確認面から４cm前後掘り込んで床面に達し床面積１６．５８m²を測る。柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸はＮ－５５°－Ｅである。覆土は暗褐色を呈している。カマドは東壁の中央部やや南寄りの位置で、天井部は削平され焼土範囲が楕円状に確認された。遺物は埦などの破片が僅かに出土した。

８号住居跡（第１１図、図版２）

位置は調査区の東側Ｃ－９グリットに所在する。形状は東西２．５m 南北の長さは試掘トレンチで南側が欠如され不明。北側２隅が丸く長方形を呈す。壁は確認面から４cm前後掘り込んで床面に達する。柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸はＮ－７０°－Ｅである。覆土は暗褐色を呈している。カマドは東壁の中央部付近にあると思われるが、遺存状態が悪く焼土範囲を確認したにとどまる。遺物は土器片が数点出土した。

９号住居跡（第１２図、図版２）

位置は調査区の中央Ｃ－６・７、Ｄ－６・７グリットに所在する。形状は南北３．７m、東西

３．２m の隅丸長方形。壁は確認面から１０cmを掘り込んで床面に達す。柱穴壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸は、Ｅ－５°－Ｓを向き、面積は１１．８０m²（試掘トレンチが南側を削除したため推定値）である。覆土は、褐色を呈している。カマドは、東壁の中央部に位置しているが、天井部はなく焼土範囲を広げて確認した。遺物は、坏、羽釜など土器片数点が出土している。

１０号住居跡（第１４図、図版２）

位置は調査区の中央Ｃ－６、Ｄ－６グリットに所在し、１１号住居跡と重複関係にあり。新旧関係は１１号住居跡を１０号住居跡が切っており新しい。形状は南北３．０m 東西２．７m の隅丸長方形を呈している。壁は確認面から２０cm程掘り込んで床面に達し床面積は７．６０m²を測る。柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸はＥ－８°－Ｓである。覆土は褐色を呈している。カマドは東壁中央部（試掘トレンチ内）に遺存の悪い焼土範囲の一部を確認した。遺物は坏、埦、石、羽釜、甕等の破片が出土している。

１１号住居跡（第１２図、図版２）

位置は調査区の中央Ｃ－５、Ｄ－５・６グリットに所在する。１０号住居跡と重複関係にある。形状は南北３．０m 東西は１０号住居跡に切られて不明。壁は確認面から２０cm程掘り込んで床面に達する。柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸は推定Ｅ－１５°－Ｓである。覆土は褐色を呈している。カマドは１０号住居跡に切られて原形は留めていない。遺物は羽釜など数点の破片が出土している。

１２号住居跡（第１６図、図版３）

位置は調査区の南西Ｄ－４・５グリットに所在する。新旧関係は１３号住居跡と重複し、新しい１３号住のカマドによって切られている。南側壁の位置を確認するため掘り拡げたが不明である。形状は東西２．６m の隅丸長方形（推定）である。壁は確認面２０cm前後掘り込んで床面に達する。床面積は不明である。柱穴、壁溝、貯蔵穴は確認できなかった。住居跡の主軸は推定Ｅ－２°－Ｓである。覆土は褐色を呈している。カマドは東壁中央部（試掘トレンチ内）に悪い遺存状況で僅かに焼土範囲を確認した。遺物は羽釜、埦、灰釉埦などの破片が出土した。

１３号住居跡（第１６図、図版３）

位置は調査区の西側Ｄ－４グリットに所在する。１２号住居跡にカマドが掛かって重複関係にある。本住居跡が新しい。形状は南北２．９m 東西２．２m で隅丸長方形を呈する。貯蔵穴はカマド南側に在り長径５０cm×短径４６cmの長円形に深さ２２cmを確認、壁は確認面から２４cm前後掘り込んで床面に達し床面積は６．３３m²を測る。柱穴、壁溝は確認できなかった。住居跡の

主軸はＥ－２°－Ｓである。覆土は褐色を呈している。カマドは東壁の中央部にあり石（角閃石安山岩）などで構築したものと思われるが、遺存状況が悪く試掘トレンチ内より確認された。遺物は完形埦２点の他に羽釜片などが出土した。

１４号住居跡（第１６図、図版３）

位置は調査区の南東側Ｄ－９・１０、Ｅ－９・１０グリットに所在する。形状は南北３．１m 東西２．４m の隅丸長方形。壁は確認面より１８cm掘り込んで床面に達し床面積は７．２０m²を測る。柱穴、壁溝は確認はできなかった。住居跡の主軸はＮ－７５°－Ｅである。覆土は褐色を呈している。カマドは東壁の中央部やや南寄りの位置にある。遺物はカマドの構築材と思われる石数個と、カマド付近から多量の鉄滓と羽口片が、他に埦、羽釜の破片が出土した。

溝

調査区の東側から１号溝（Ｗ－１）、２号溝（Ｗ－２）、３号溝（Ｗ－３）とした。

１号溝

位置は調査区の東辺に沿って南北（Ｎ－２１°－Ｗ）方向に走行し調査区域外に続くと思われる。試掘トレンチによって溝跡の一部が確認されたものである。長さ１７．６m 溝幅は調査区域外の隣接道路下に在り測定不能である。深さは約１４５～１５５cmを測った。立ち上がりは緩やかな法勾配１：１．６（約３２°）を呈している。遺物は出土していない。

２号溝

位置はＤ－８、Ｃ－８・９・１０グリット内を東西（Ｎ－７５°－Ｅ）方向に湾曲しながら走行し８号住居跡の床面下のローム層を掘り込んで確認された。幅は約３５～４０cm深さ約１５～２０cmを測る。砂の堆積は見られず、遺物も出土していない。

３号溝

位置はＤ－７・８グリット内にある。トレンチ掘りにより確認した溝で、南北（Ｎ－１２°－Ｗ）方向に走行している。幅は２．４０m 深さ１．７０ mを測り地山のローム層を掘り込んで形成し、ややすり鉢形の立ち上がりを呈している。埋積した土層中に浅間Ｂ軽石が見られた。遺物は流れ込みの土師片が数点出土している。

集石遺構

位置は調査区南壁中央Ｅ－８グリットに所在する。石の大きさは１０～４０cmの丸みを持った川原石で数量は１８０個にのぼり土器片も所々に数点出土した。

第五章　まとめ

若宮遺跡は西に榛名山、東に利根川、北東には利根川を越えて赤城山を望む地にある。榛名山は造山活動期の気成作用による火山噴出物が浸食され、崩壊、風化し火山堆積物をして火山東南斜面を形成している。東南斜面を流下する多くの中小河川（染谷川、八幡川、牛池川、午王頭川‥‥）により火山堆積物を裾野に拡げ、相馬ケ原付近を扇頂とした扇状を形成し、榛名の山裾に広がる前橋台地に達している。総社町植野付近（当遺跡から東へ約３００ｍ）の利根川右岸断崖には前橋台地を構成する地層が露呈している。ここで地表（黒土層）部が火山灰質シルト層を主体とした水成上部ローム層の上に在るのが分かる。当遺跡は標高１３０ｍで利根川左岸の市役所付近より約３０ｍ高地に在る。西北へ約３５００ｍに在る清里陣場遺跡（所在・前橋市池端町、北群馬郡吉岡村陣馬）は、標高１９０ｍで６０ｍ程高地に在る。総社城主秋元氏が1601～1604年に開鑿した天狗岩用水が西側に隣接して南下している。

遺構は黒色土層にある。５０cm程の耕作土の下に削平された遺存状態で確認された。住居跡１４軒（内カマドのみ１軒）溝３条、集石遺構１基である。

遺物は主に平安時代と思われる物が多く、これらの特徴を清里陣場遺跡の第１期土器群から第６期土器群の編年区分に求めると、おおむね第３期土器群から第５期土器群にあてはめて区分できるものと思われる。

これを内訳けると、第３期土器群にＨ－５号住の須恵器椀とＨ－１０号住羽釜が区分できる。第４期土器群にＨ－１号住の土師質椀、Ｈ－２号住の土師質坏・土釜、Ｈ－５号住の灰釉椀・土釜、Ｈ－７号住の土師質椀（内黒）、Ｈ－１３号住の土師質椀、Ｈ－１４号住の土師質坏があてはまる。第５期土器群にＨ－１２・１３号住の羽釜に区分される。

以上を基に住居跡を時代区分するとＨ－５・１０号住居跡が１０世紀前半代～１０世紀後半代に、Ｈ－１・２・７・９・１４号住居跡が１０世紀後半代に、Ｈ－１２・１３号住居跡が１１世紀前半代に推定される。なお、Ｈ－３・４・６・８・１１号住居跡からは遺存のよい物がなく編年区分に至らなかったが、１０世紀後半代の遺構遺物が最も多く最盛期を窺える。

また、Ｈ－１４号住居跡より鉄滓が出土し製鉄遺構の存在もが考えられるが、確認する資料に乏しく遺物確認にとどめた。

溝

１号溝（Ｗ－１）は大半が調査区域外に在り出土遺物がなく埋積された土層からも年代を知る資料は得られていないが、南２００ｍ方向に稲荷山古墳（1988年記録保存）が在った。この北に接して東西方向に大きな掘割り（最近になって埋戻された。）が在り天狗岩用水に合流していた。１号溝の南進方向にはこの掘割りが在る。北進して２００ｍ程には、天狗岩用水から分流する五千石用水の分岐点に達する。勝山城・総社城などに関わる遺構かどうかは、今後の調査に待

ちたい。

２号溝（W－２）は８号住居跡の床面下を東方向へ走行して居ることから８号住居跡より古いもので在る。大半が調査区域外に在るため切り合い関係が明確に捕えられないが、１号溝に切られている。

３号溝（W－３）は浅間Ｂ軽石が溝に堆積し、出土遺物に高坏の破片が出土したが時期を知るまでに至らなかった。

集石遺構からは川原石に混じり数点の土器片が出土した。不用石材の捨て場所と思慮されるが年代は不明である。

参考文献

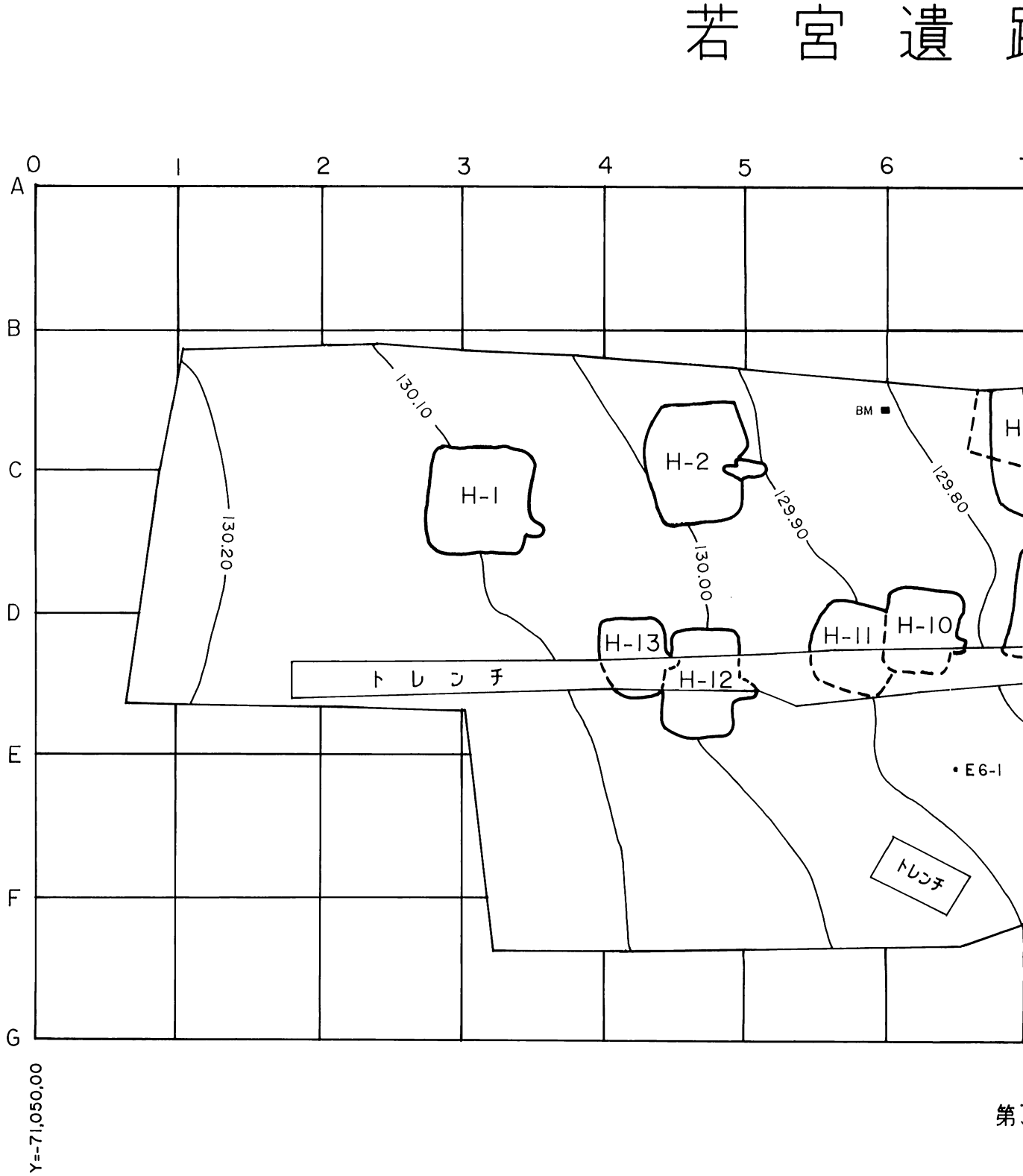
「塚廻り古墳群」（群馬県教育委員会）１９８０
「清里陣場遺跡」（群馬県埋蔵文化財調査事業団）１９８１
「製鉄遺跡」（考古学ライブラリー１５ニュー・サイエンス社）１９８３
「柿木遺跡」（群馬県前橋市教育委員会）１９８４
「中尾遺跡」（報告書第６集　群馬県埋蔵文化財調査事業団）１９８４
「鳥羽遺跡」（報告書第１１集　群馬県埋蔵文化財調査事業団）１９８６
「村東遺跡」（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）１９８８
「生川遺跡」（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）１９８８
「稲荷山古墳」（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）１９８８

出土遺物観察表

註：法量は①口径②底径③高台径④器高をcmで（ ）は推定値を示す。

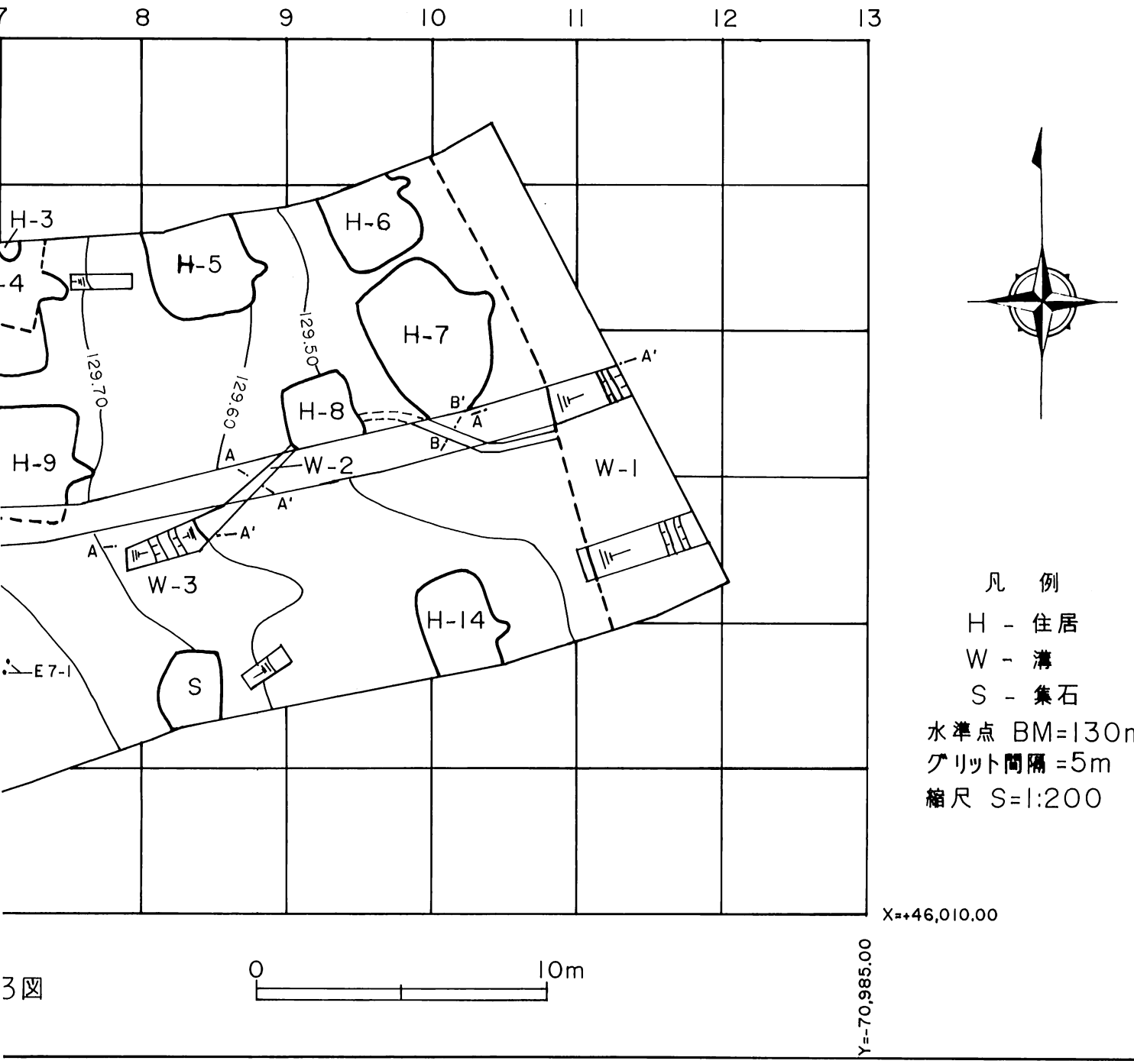
NO	出土場所	種類	法量	胎土焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	遺存備考	図版
1	Ⅱ-1-1	土師質埦	③(7.8)	良・酸化	鈍い橙	高台部は端がつぶれ粗雑な貼付け。内外面回転ナデ調整。	台部½残	4
2	Ⅱ-1-2	埴輪		良・酸化	鈍い橙	帯貼付、外面縦刷毛目、内面縦指ナデ調整。	底部残	4
3	Ⅱ-1-3	埴輪		良・酸化	鈍い橙	帯貼付、外面縦刷毛目、内面縦指ナデ調整。	胴部残	4
4	Ⅱ-2-1	灰釉陶器埦	①(15.0) ③5.2	良・還元硬	灰白釉透明	体部は丸みをもって張り、口縁部は小さく外反する。内面施釉、底部貼付高台、内外面ナデ調整。	口～底部½残	4
5	Ⅱ-2-2	羽釜	①(18.4)	不良還元	灰白	口縁部は内傾し立ちあがる。口唇部編平、鍔は三角形。内外面ナデ調整。	口縁¼残	4
6	Ⅱ-2-3	土師質坏	①(10.2) ④3.5	不良還元軟	灰白	底部から体部は内彎しながら立ち上がり口縁部で僅か外反する。外面ナデ調整底部右回転糸切り末調整、内面ナデ調整。	口－底部¾残	4
7	Ⅱ-2-4	羽釜	① 22.0	良・還元	明褐灰	口縁部は内彎ぎみに立ち、胴部は僅かに内傾する。鍔は三角形の貼付。内外面ナデ調整。	口縁部¼残	4
8	Ⅱ-2-5	土師質坏	①11.6 ②6.0 ④3.6	良・還元軟	灰白	底部から直線的に口縁まで立ち上がる。底部右回転糸切り調整、内外面ナデ調整。	¾残	4
9	Ⅱ-2-6	羽釜	①(23.6)	良・酸化	鈍い橙	口唇部は平に削られ内側傾斜。鍔断面台形。内外面ナデ調整	口縁⅓残	5
10	Ⅱ-2-7	土師器土釜	①(18.0)	良・酸化	橙	口縁部は直線的に外反し、胴部は緩やかに彎曲する。内外面ナデ調整、胴部篦ナデ調整。	胴～口縁½残	5
11	Ⅱ-2-8	土師器甕	①(24.0)	不良酸化	橙	口縁は短く外反。外面底部方向篦削り。内面ナデ調整。	口縁¼残	5
12	Ⅱ-5-1	灰釉陶器埦	①(17.2) ③6.3	良・還元硬	灰白釉透明	口縁部は小さく外反し、体部は丸みを持つ。内外面ナデ調整。底部は右回転糸切り貼付け高台。	底～口縁⅓残	5
13	Ⅱ-5-2	須恵器埦	③(7.0)	良還元軟	灰白	底部は右回転糸切り貼りつけ高台、内外面ナデ調整。上部内外面施釉。	底～口縁⅓残	5
14	Ⅱ-5-3	土釜	①(20.8)	良・酸化	灰白	頚部は直線的に立ち、口縁部は外反する。内外面ナデ調整。	口縁¼残	5
15	Ⅱ-7-1	須恵器埦	①(14.8) ③(6.6) ④(4.9)	良・還元	灰白	低い高台を付した底部より直線的に外反して口縁部に至る。内外面回転ナデ調整、貼付高台いびつ。	底～胴部	5
16	Ⅱ-9-1	須恵器埦	①(13.1)	良・還元	灰白	体部は内彎気味に立ち上がり口縁は外反。内外面ナデ調整。	口縁¼残	5
17	Ⅱ-9-2	羽釜	①(18.0)	良・還元硬	鈍い橙	口縁部は直線的に内傾し胴部は僅か彎曲する。鍔は断面三角形を呈す。内外面ナデ調整。	口縁部残	6
18	Ⅱ-10-1	土師質埦	①(13.6)	良・酸化	橙	口縁部は僅か外反し胴部は彎曲する。内外面ナデ調整、内面黒色処理。	口縁部残	6
19	Ⅱ-10-2	土師質坏	②6.0	良・還元硬	浅黄橙	体部は彎曲して立ち上がる。外面ナデ調整。底部は右回転糸切り内面ナデ調整。内面黒色処理。	底部残	6
20	Ⅱ-10-3	土師質埦	③7.0	良・還元	灰白	底部貼付高台。内外面ナデ調整。	底部一残	6
21	Ⅱ-10-4	石	長9.0 幅5.9 厚4.5			棒状礫。輝石安山岩。煤付着。支脚石？	半欠損	
22	Ⅱ-10-5	羽釜	①21.2	良・酸化	灰白	直立気味の胴部。断面三角形の貼付の鍔、内外面ナデ調整。	口縁¼残	6
23	Ⅱ-12-1	羽釜	①(19.6)	良・酸化	浅黄橙	口縁部内傾。胴部は彎曲する。鍔は上向。内外面ナデ調整。	口縁部残	6
24	Ⅱ-13-1	須恵器埦	①11.2	良・還元硬	灰白	体部は彎曲しながら立ち上がり口縁部で外反する。貼付高台はいびつ。高台部に爪形の工具痕有り。内面工具使用痕有り 底部爪形の跡有り。内外面ナデ調整。	完形	6
25	Ⅱ-13-2	羽釜	①(26.0) ③5.4 ④5.6	良・酸化	浅黄橙	胴部から口縁部に掛けて内彎し口唇部で外反する。鍔は断面台形で貼付、内外面ナデ調整。	胴～口縁⅓残	7
26	Ⅱ-13-3	土師質埦	①14.8	良・酸化	浅黄橙	体部は緩やかに内彎し口縁部で外反する。高台部は貼付一部欠、回転糸切、内外面ナデ調整。	ほぼ完	7
27	Ⅱ-13-4	羽釜	①(19.2)	良・酸化	灰白	胴部は緩やかに内彎し口唇部で直立する。鍔は三角形の断面を呈す、貼付ナデ調整。内面櫛目模様の調整痕あり。	口縁部残	7
28	Ⅱ-14-1	土師質埦	②(5.8)	不良酸化	浅黄橙	体部は彎曲し立ち上がる。貼付け高台。内外面回転ナデ調整	底部残	7
29	Ⅱ-14-2	土師質埦	①(19.2) ④5.1	良・酸化	橙	貼付け高台部は低く、体部は内湾しながら立ち上がる。内外面丁寧なナデ調整。	底～口縁½残	7
30	Ⅱ-14-3	土師質坏	①11.6	良・酸化	橙	平底、体部は僅かに内湾気味に立ち上がる。内外面ナデ調整	口縁¼残	7
31	Ⅱ-14-4	打製石斧	長6.5 幅4.1 厚1.3			小型の短冊形石斧、刃部は彎曲する。		7
32	E-6-1	須恵器埦	③7.4	良・還元	灰白	体部は彎曲気味に立ち上がる。高台部は粗雑な貼付けで歪が見られる。内外面ナデ調整。	底部残	7
33	E-7-1	須恵器甕	①(27.0)	良・還元	暗青灰	球形の胴部から頚部で「く」の字に外反し口縁に至る。口唇部は僅か内彎し折り返す。口唇部は幅広で弱い凹帯が一条巡る。内面ナデ調整。胎土は粗い白色鉱物を多量に含む。	胴～口縁½残	8

若宮遺跡

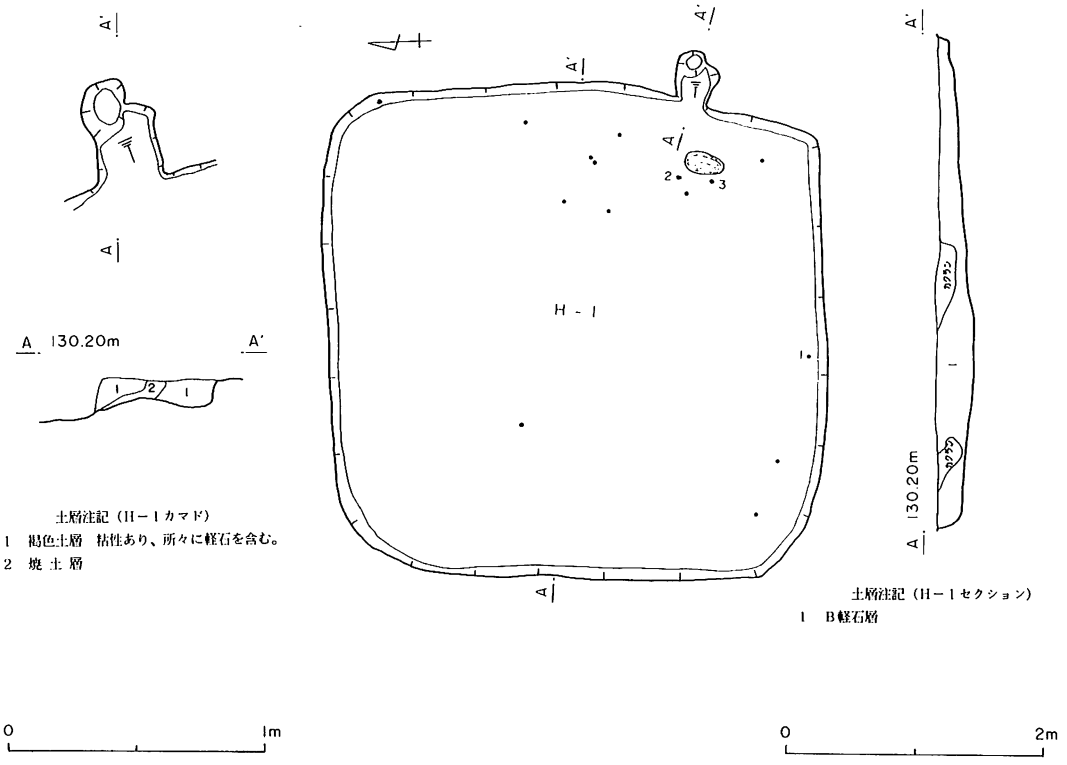

0
1
2
3
4
5
6
A
B
C
D
E
F
G
130.10
130.20
130.00
129.90
129.80
BM
H-1
H-2
H-10
H-11
H-12
H-13
トレンチ
E6-1
トレンチ
Y=-71,050.00

第

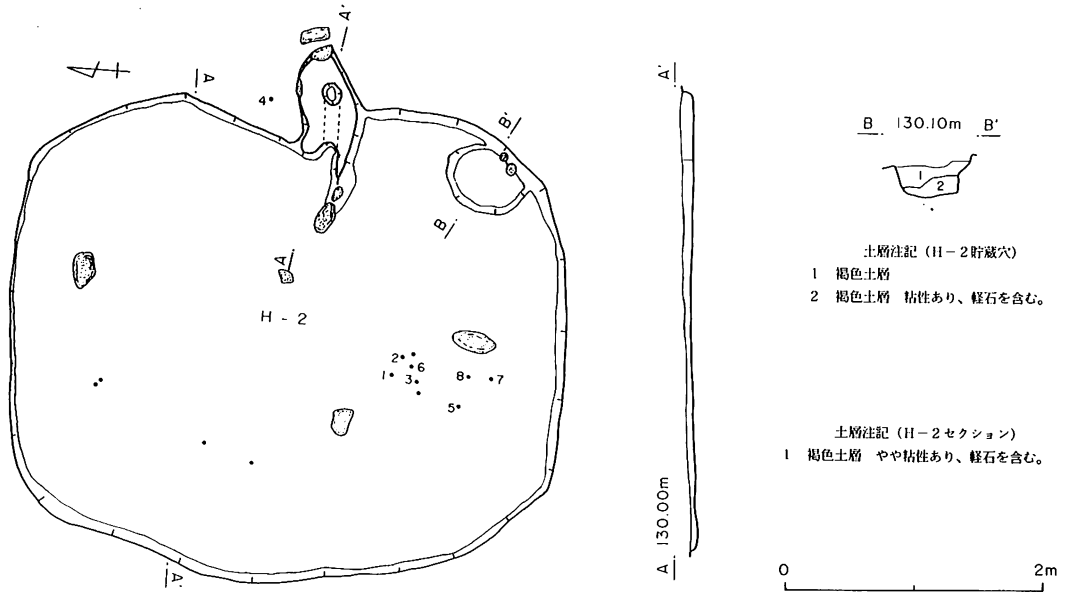
跡全体図　（63A－39）



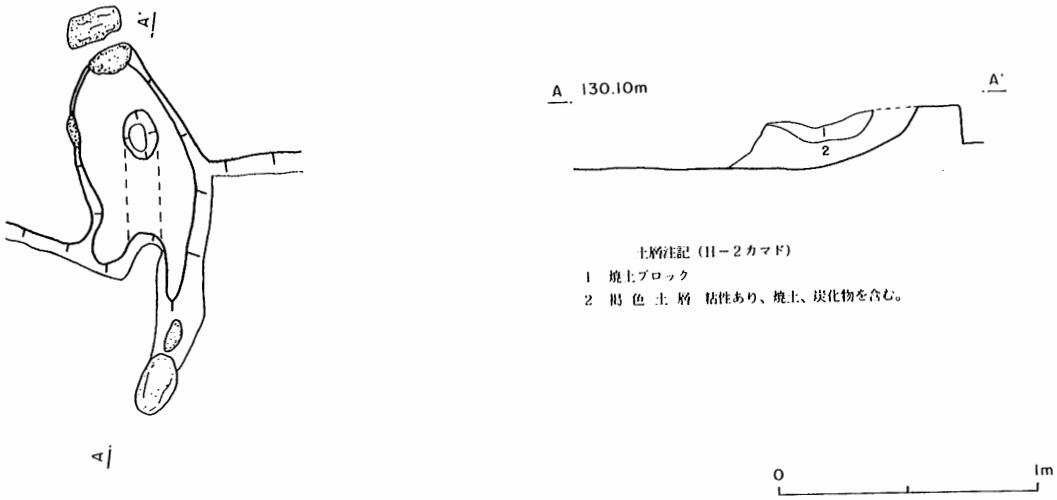
3図



第4図　1号住居跡・カマド実測図

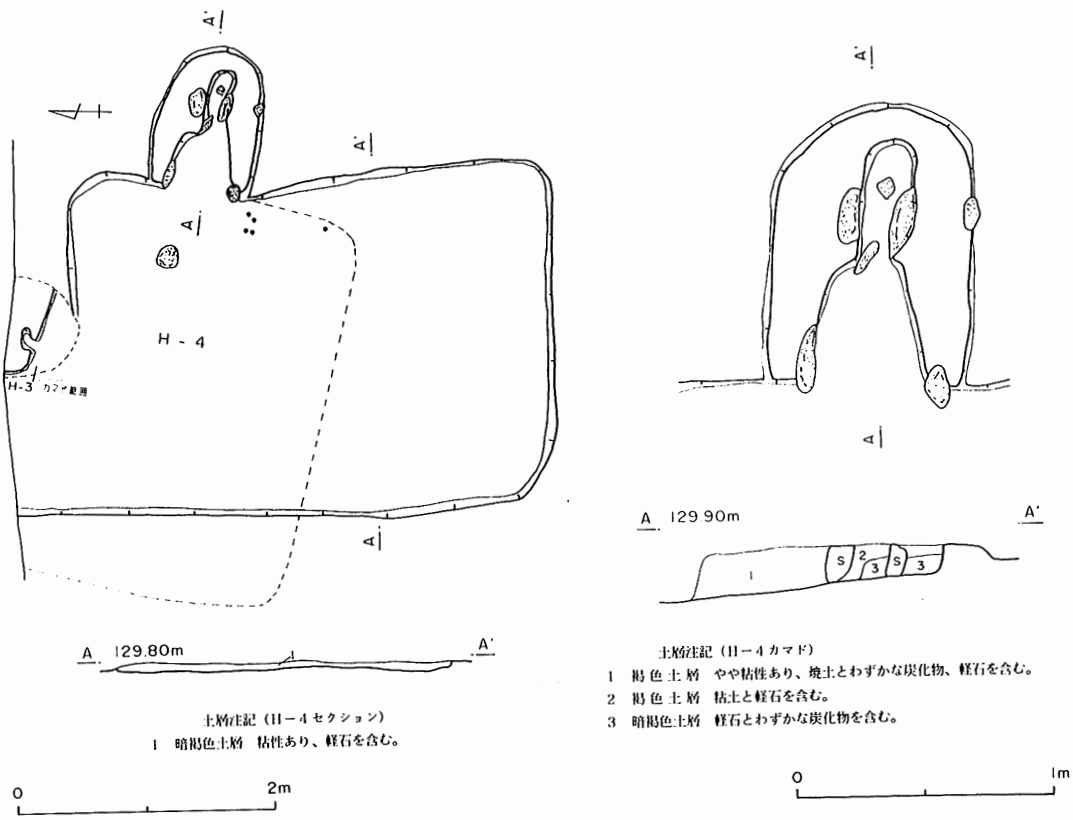


第5図　2号住居跡実測図



土層注記（H－2カマド）
1　焼土ブロック
2　褐色土層　粘性あり、焼土、炭化物を含む。

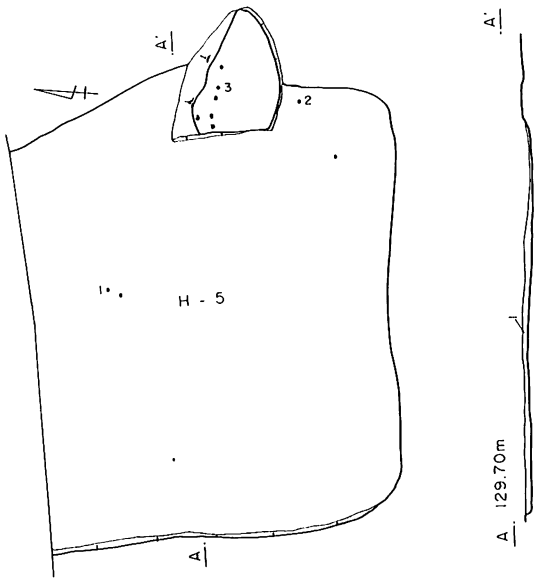
第6図　2号住居跡カマド実測図



土層注記（H－4セクション）
1　暗褐色土層　粘性あり、軽石を含む。

土層注記（H－4カマド）
1　褐色土層　やや粘性あり、焼土とわずかな炭化物、軽石を含む。
2　褐色土層　粘土と軽石を含む。
3　暗褐色土層　軽石とわずかな炭化物を含む。

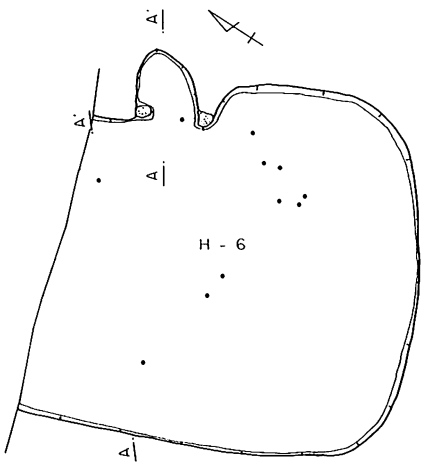
第7図　3号住居跡・4号住居跡・カマド実測図



土層注記（H－5セクション）
1　暗褐色土層　粘性あり。

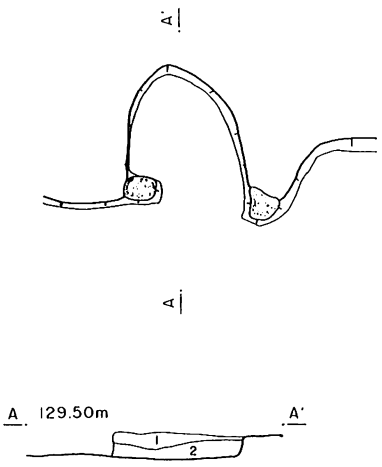
0　2m

第8図　5号住居跡実測図



土層注記（H－6セクション）
1　褐色土層　やや粘性あり、軽石ローム粒を含む。

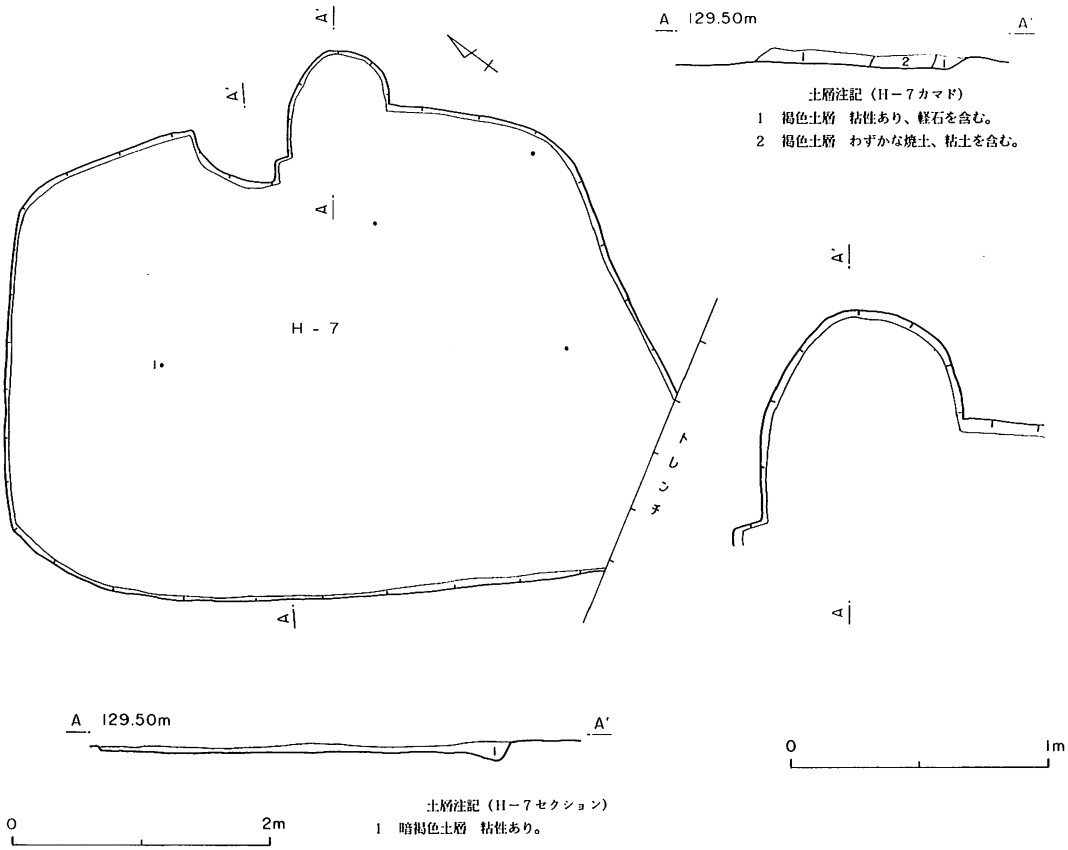
0　2m



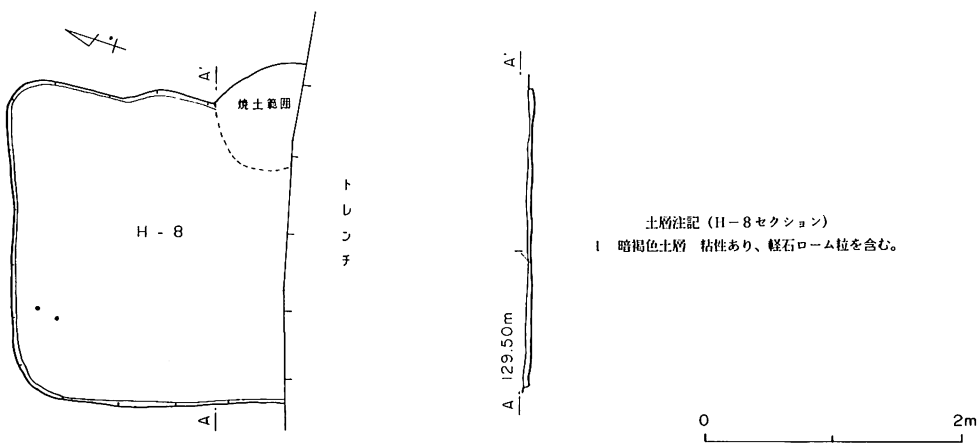
土層注記（H－6カマド）
1　焼土ブロック層
2　暗褐色土層　焼土を含む。

0　1m

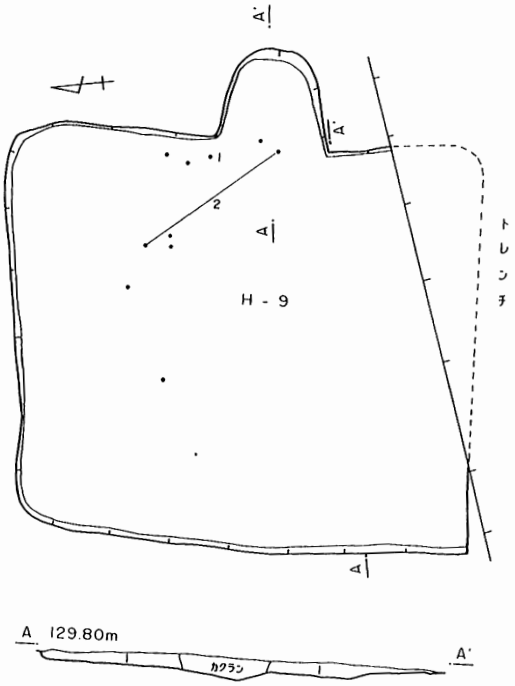
第9図　6号住居跡・カマド実測図



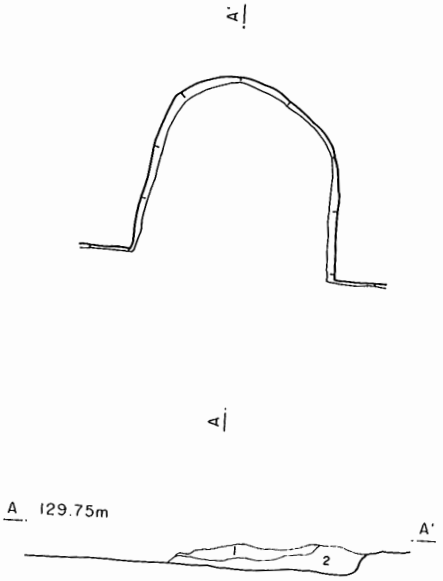
第１０図　７号住居跡・カマド実測図



第１１図　８号住居跡実測図



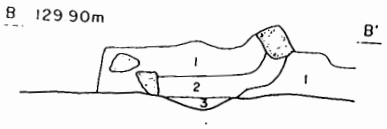
土層注記（H－9セクション）
1　褐色土層　やや粘性あり、軽石を含む。



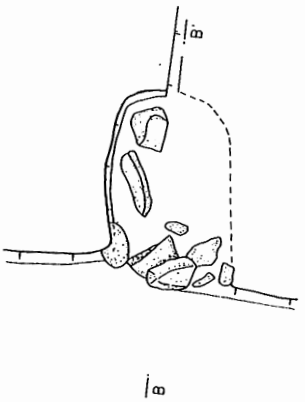
土層注記（H－9カマド）
1　褐色土層　粘性あり、焼土を含む。
2　褐色土層　わずか焼土を含む。

0　2m　　0　1m

第１２図　９号住居跡・カマド実測図

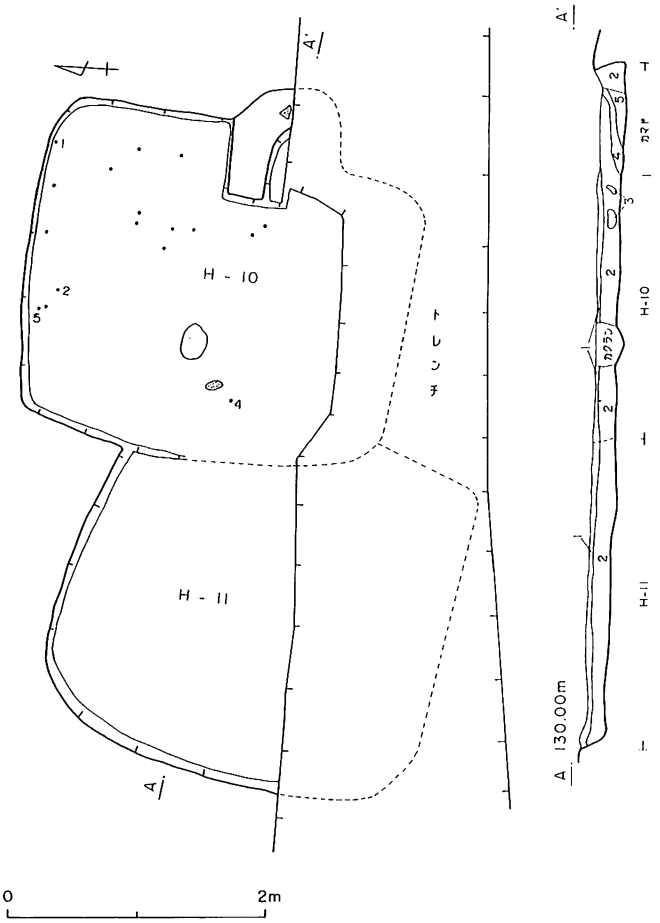


土層注記（H－１３カマド）
1　褐色土層
2　褐色土層　粘性あり、焼土粒と軽石を含む。
3　暗褐色土層　灰と軽石を含む。



0　1m

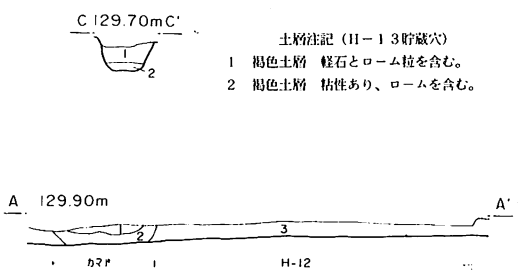
第１３図　１３号住居跡カマド実測図



土層注記（H－１０カマド）
2　褐色土層　やや粘性あり、軽石を含む。
4　褐色土層　灰、焼土、炭化物を含む。
5　暗褐色土層　ローム粒を含む。

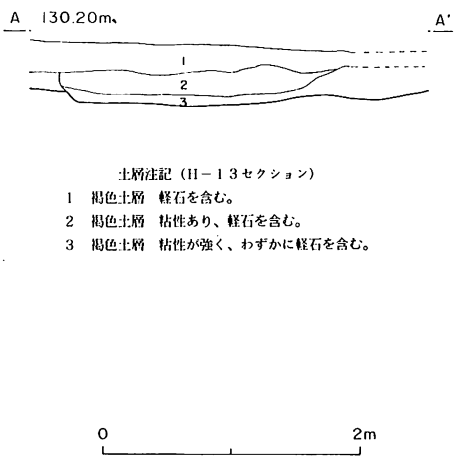
土層注記（H－１０セクション）
（H－１１セクション）
1　褐色土層　軽石を含む。
2　褐色土層　やや粘性あり、軽石を含む。
3　褐色土層　炭化物と粘土ブロックを含む。

第１４図　１０号住居跡・１１号住居跡実測図



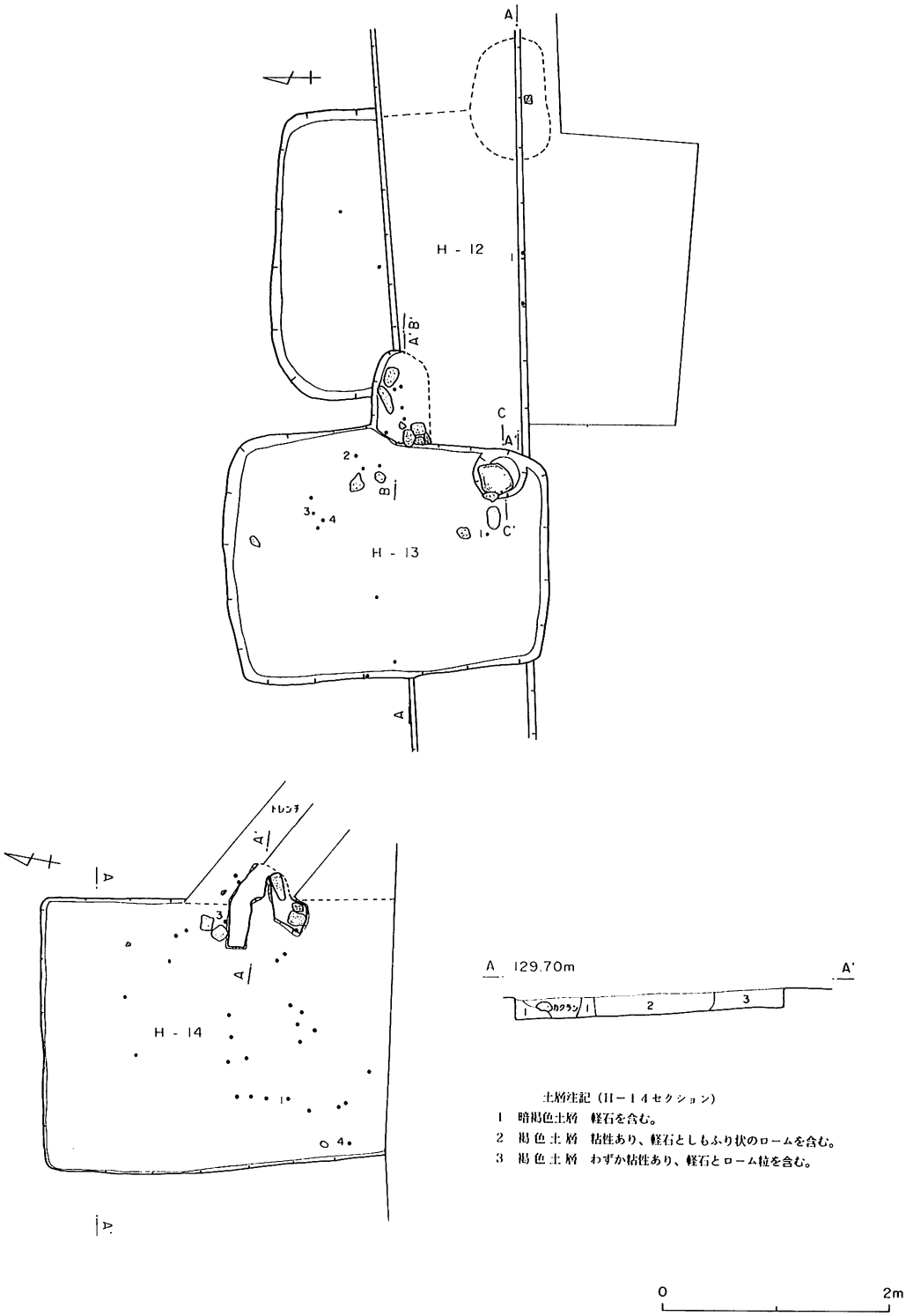
土層注記（H－１３貯蔵穴）
1　褐色土層　軽石とローム粒を含む。
2　褐色土層　粘性あり、ロームを含む。

土層注記（H－１２セクション）（H－１２カマド）
1　褐色土層　やや粘性あり、砂質のブロックを含む。
2　褐色土層　粘性あり、所々に焼土粒を含む。
3　褐色土層　粘性あり、下に行くほど締まっている。軽石を含む。

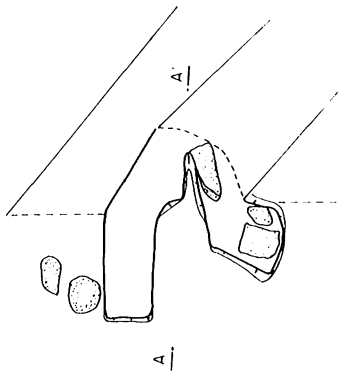


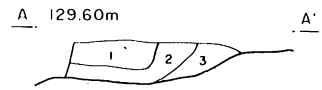
土層注記（H－１３セクション）
1　褐色土層　軽石を含む。
2　褐色土層　粘性あり、軽石を含む。
3　褐色土層　粘性が強く、わずかに軽石を含む。

第１５図　１２号住居跡・１３号住居跡実測図



第１６図　１２号住居跡・１３号住居跡・１４号住居跡実測図

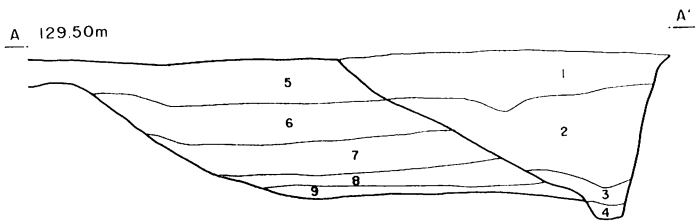




土層注記（H－14カマド）
1　褐色土層　軽石とローム粒を含む。
2　褐色土層　粘性あり、わずかな炭化物を含む。
3　褐色土層　粘性あり、炭化物、焼土を含む。

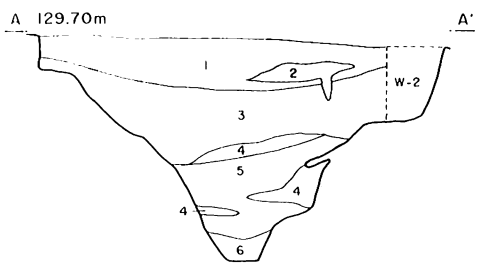
0　1m

第17図　14号住居跡カマド実測図



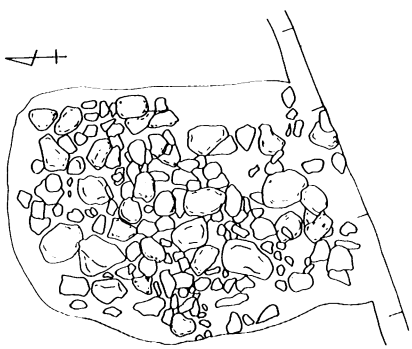
土層注記（1号溝セクション）
1　黒褐色土層。
2　褐色土層　焼土、軽石を含む。
3　黒褐色土層　粘土粒を含む。
4　黒褐色土層　砂礫を含む。
5　褐色土層　粘性あり。
6　ローム層。
7　灰褐色土層　粗砂粒を含む。
8　灰褐色土層　砂礫を含む。
9　灰白粘土層。

第18図　1号溝跡実測図

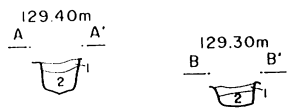


土層注記（3号溝セクション）
1　褐色土層　軽石と粗土を含む。
2　砂　層　。
3　暗褐色土層　粘性あり礫を含む。
4　砂礫層。
5　灰白色土層　礫を含まない砂質層。
6　暗灰色土層　ほとんど細砂。

第19図　3号溝跡実測図



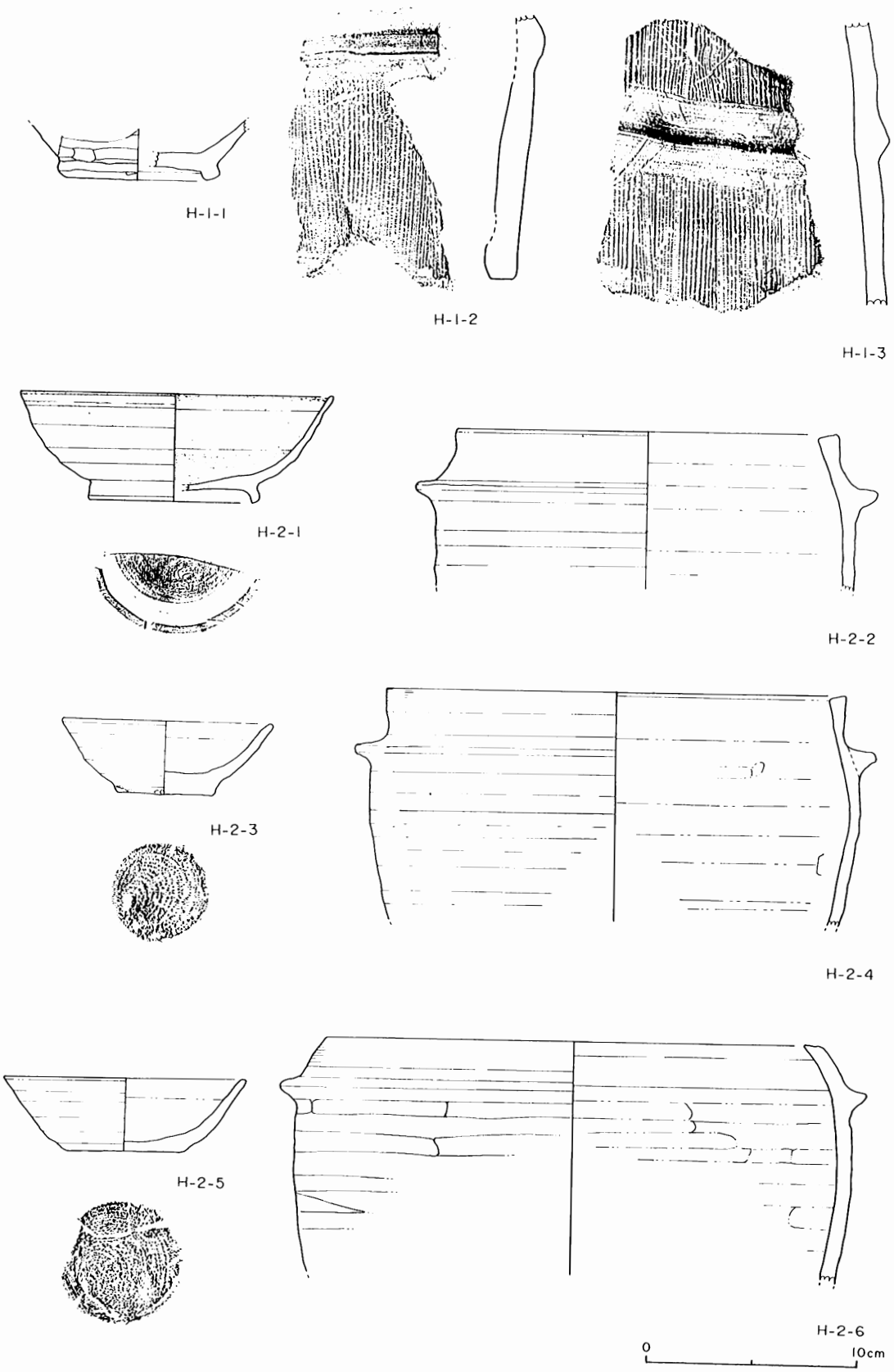
第21図　集石遺構実測図



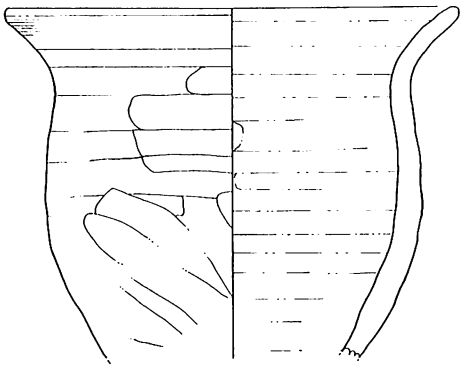
土層注記（2号溝セクション）
1　褐色土層　粗砂を含む。
2　褐色土層　粘性あり、軽石を含む。

第20図　2号溝跡実測図

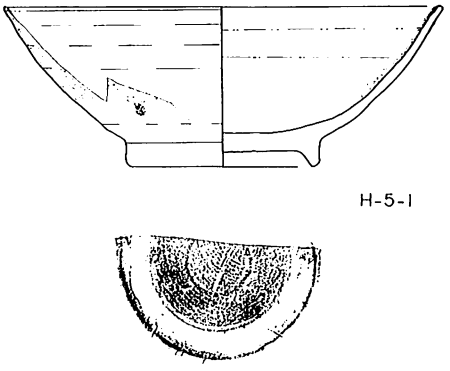
0　2m


H-1-1
H-1-2
H-1-3
H-2-1
H-2-2
H-2-3
H-2-4
H-2-5
H-2-6
0
10cm

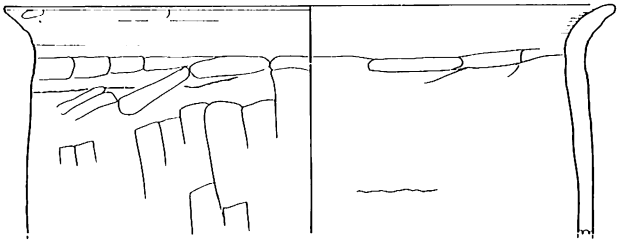
遺物実測図　2



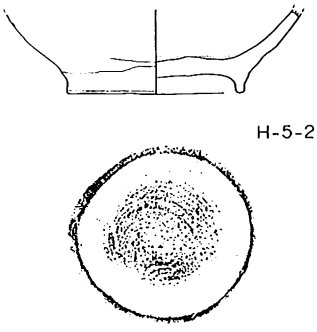
H-2-7



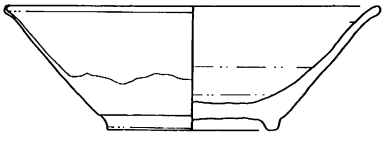
H-5-1



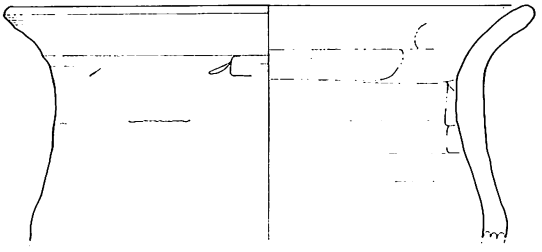
H-2-8



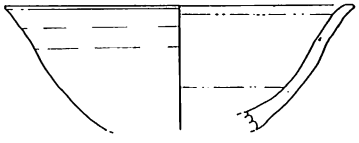
H-5-2



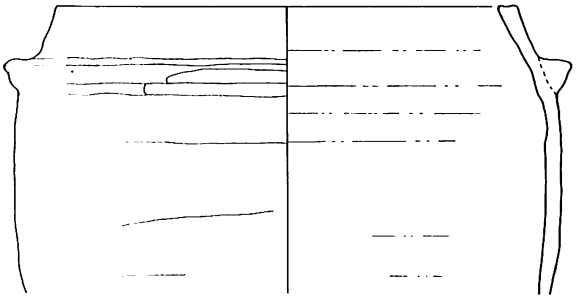
H-7-1



H-5-3

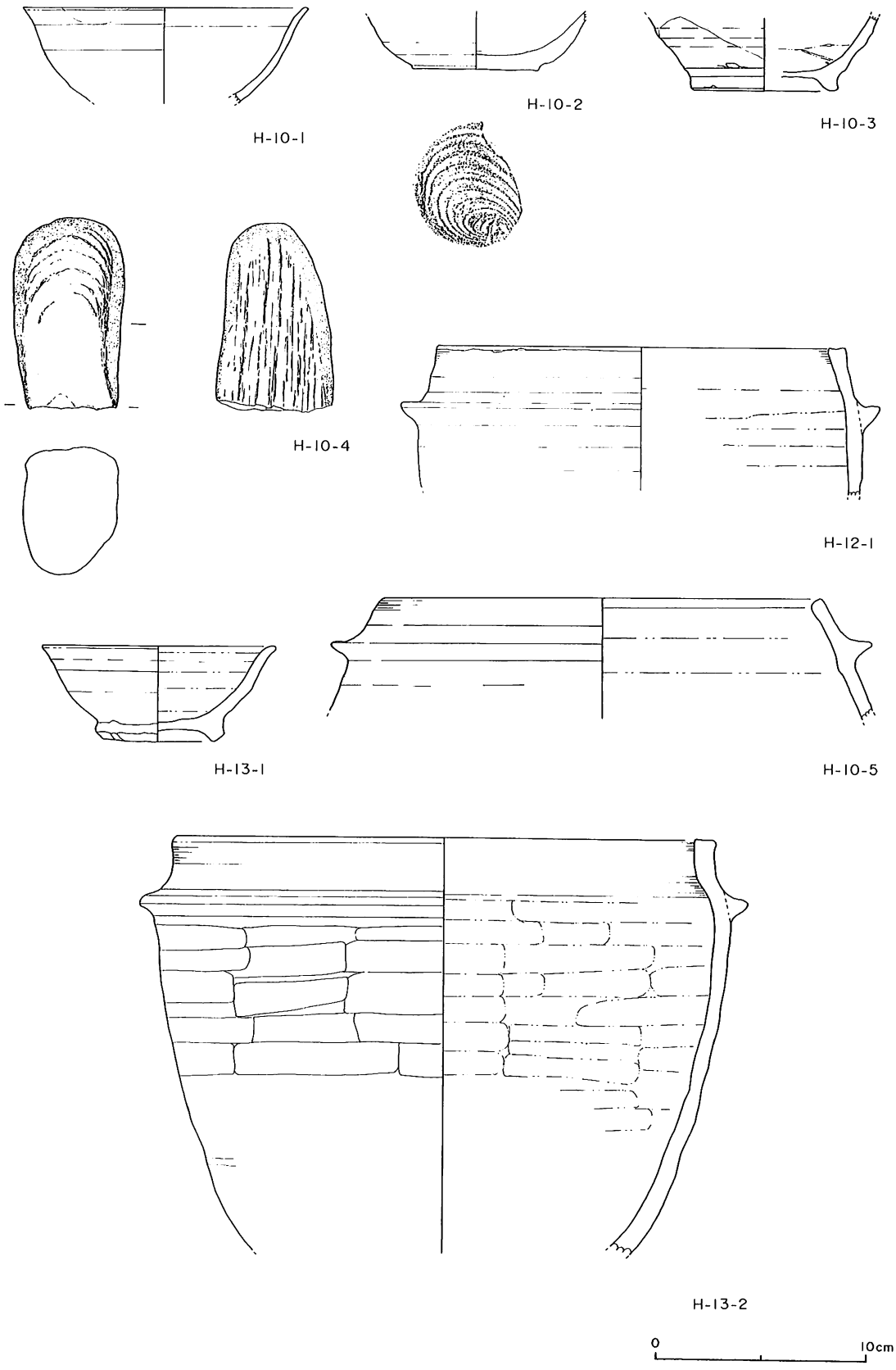


H-9-1

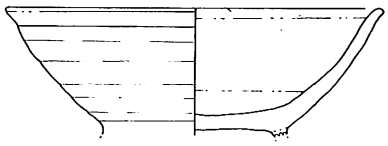


H-9-2

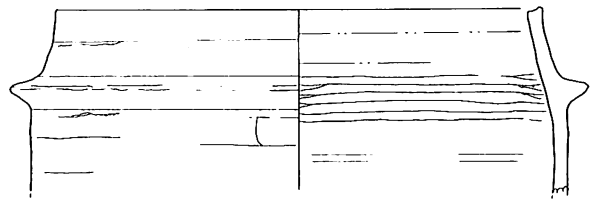
0　10cm


H-10-1
H-10-2
H-10-3
H-10-4
H-12-1
H-13-1
H-10-5
H-13-2
0
10cm

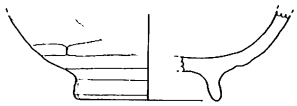
遺物実測図　4



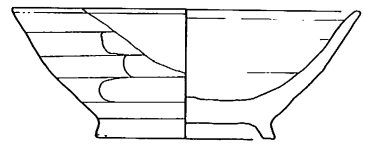
H-13-3



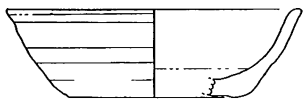
H-13-4



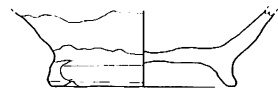
H-14-1



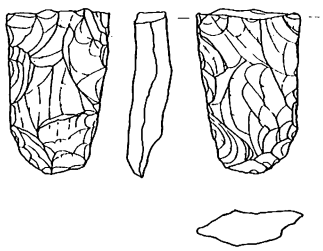
H-14-2



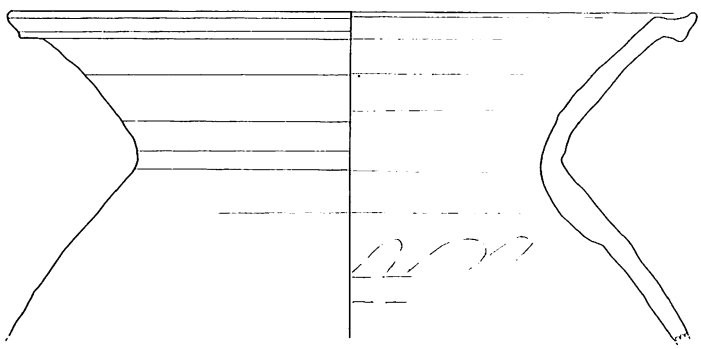
H-14-3



E-6-1



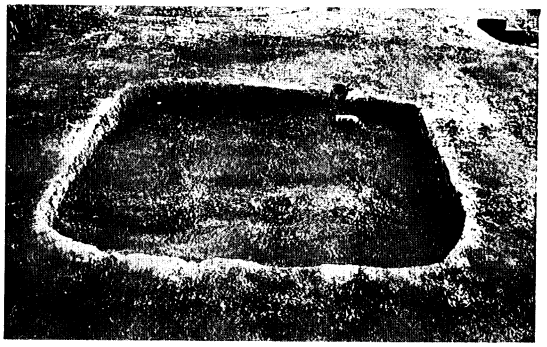
H-14-4



E-7-1

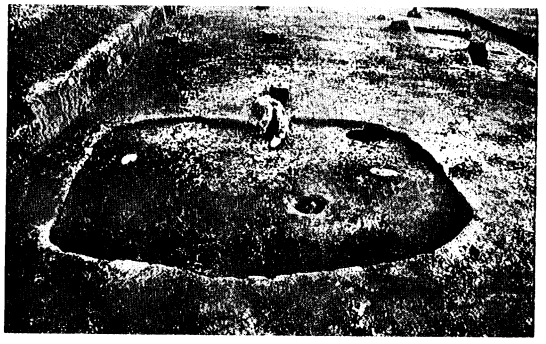
0　10cm

若宮遺跡全景

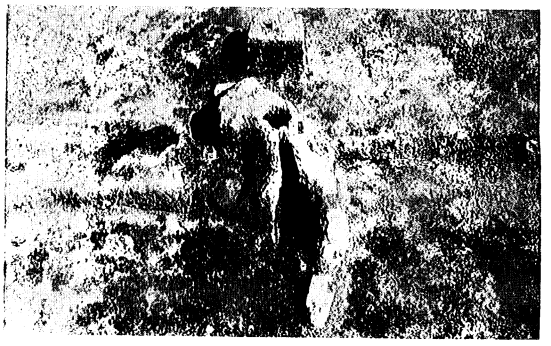


1号住居跡

1号住居跡カマドセクション



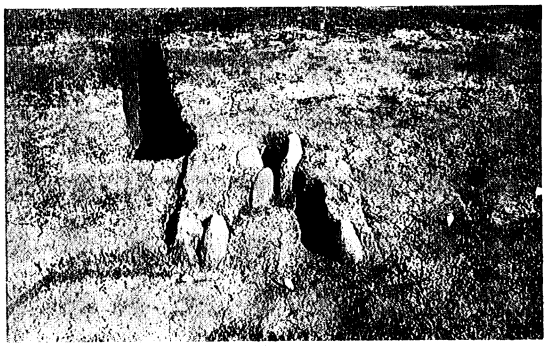
2号住居跡



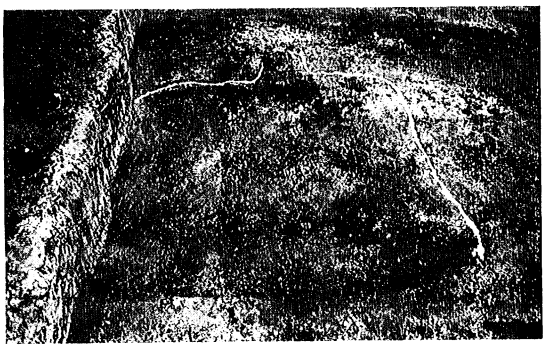
2号住居跡カマド

図版　2

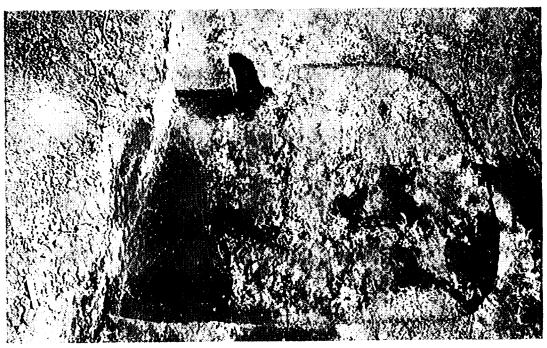
3・4号住居跡



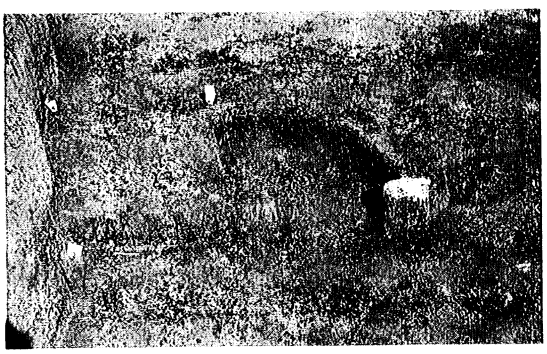
4号住居跡カマド



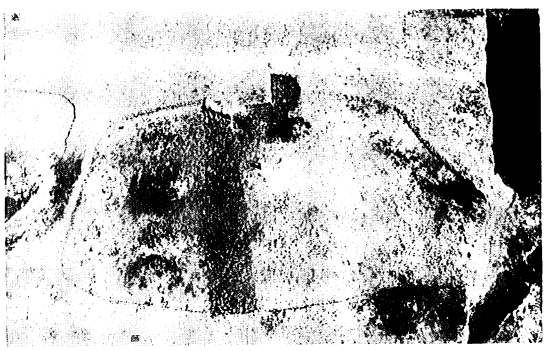
5号住居跡



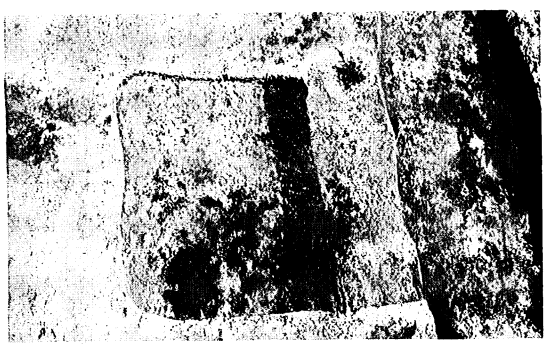
6号住居跡



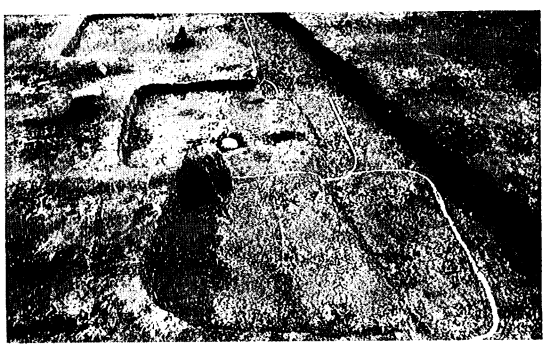
6号住居跡カマド



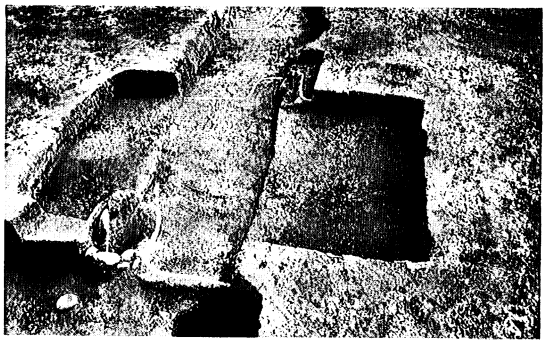
7号住居跡



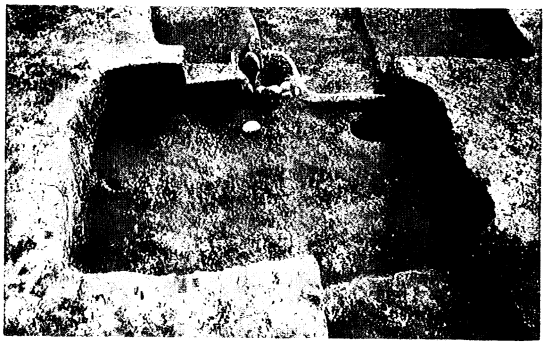
8号住居跡



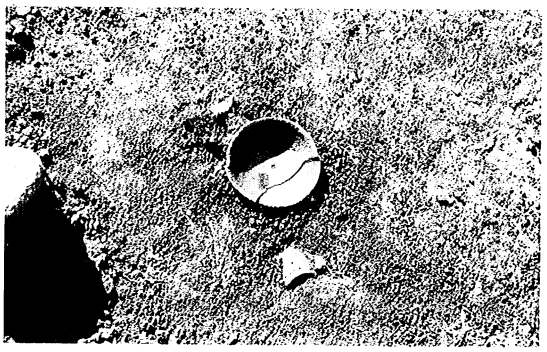
9・10・11号住居跡



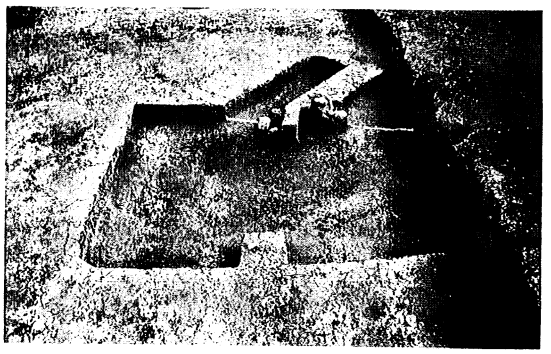
１２号住居跡



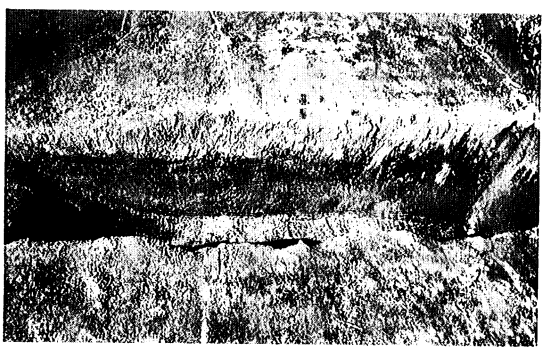
１３号住居跡



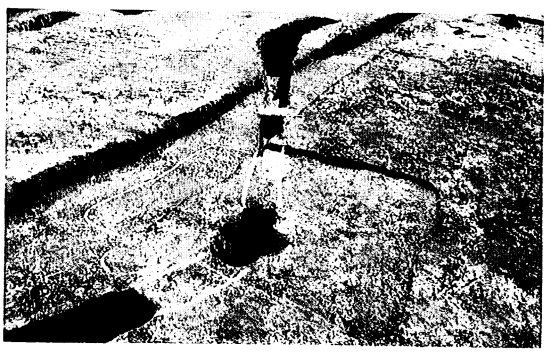
１３号住居跡出土遺物状況



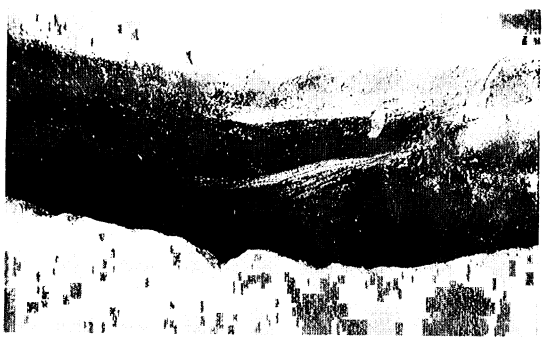
１４号住居跡



１号溝跡セクション



２号溝跡

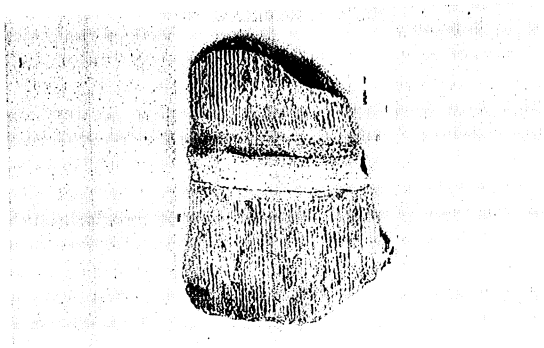


３号溝跡セクション

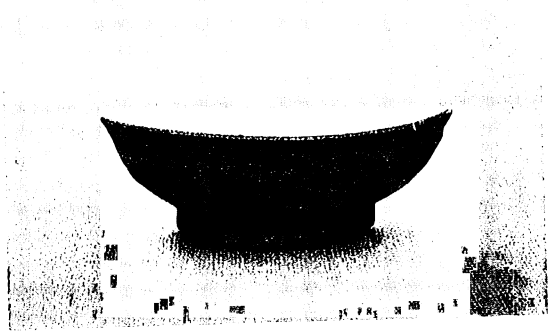
Ｅ－８グリット内集石

H-1-1

H-1-2



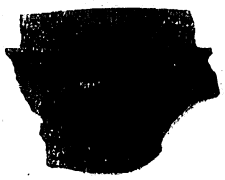
H-1-3



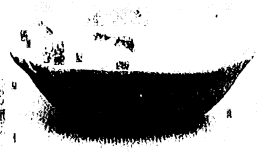
H-2-1

H-2-2

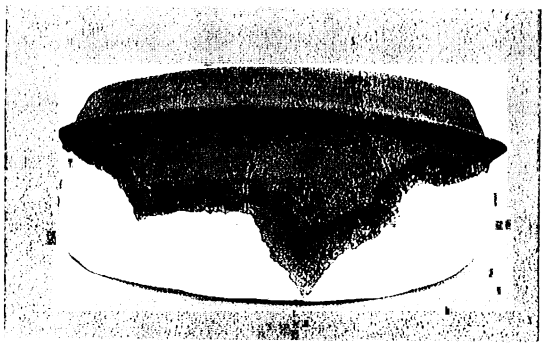
H-2-3



H-2-4

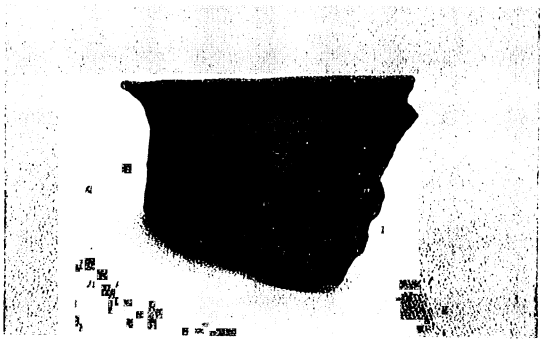


H-2-5

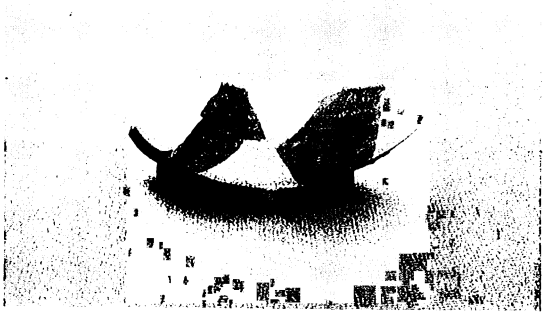


H-2-6

H-2-7



H-2-8

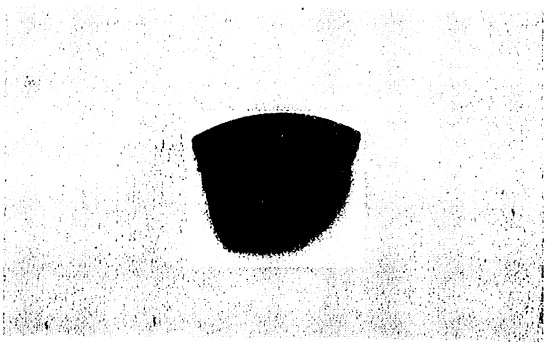


H-5-1

H-5-2

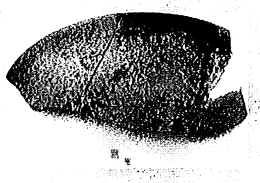
H-5-3

H-7-1

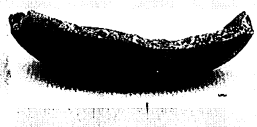


H-9-1

H-9-2



H-10-1



H-10-2

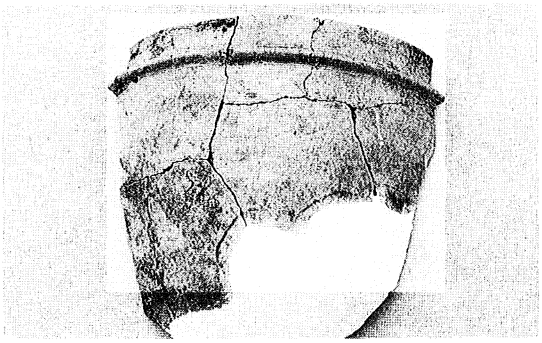
H-10-3

H-10-4

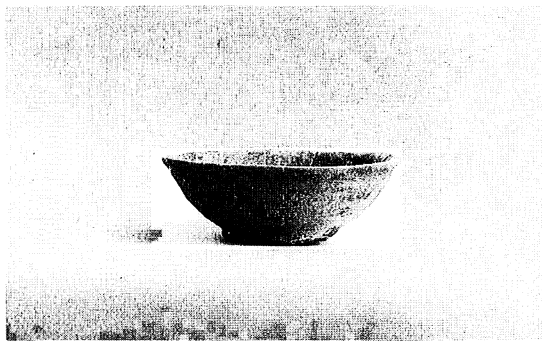
H-10-5

H-12-1

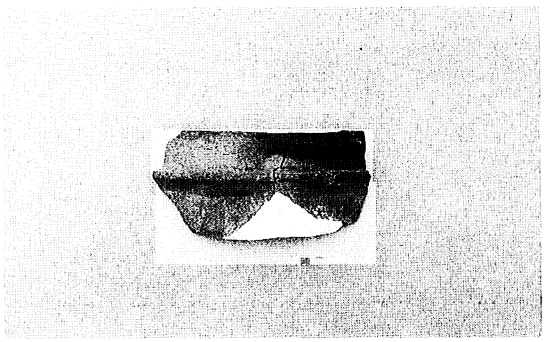
H-13-1



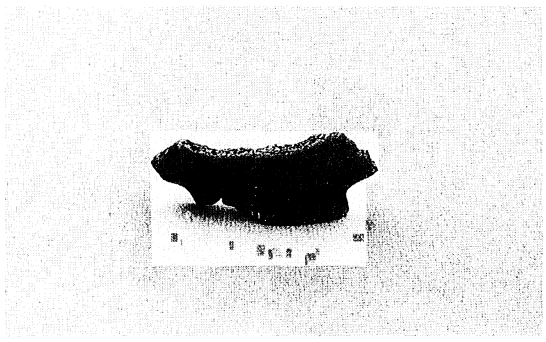
H-13-2



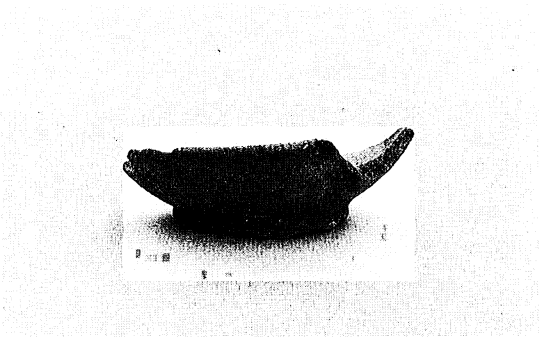
H-13-3



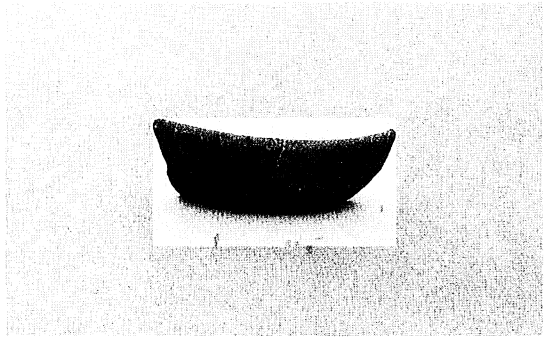
H-13-4



H-14-1

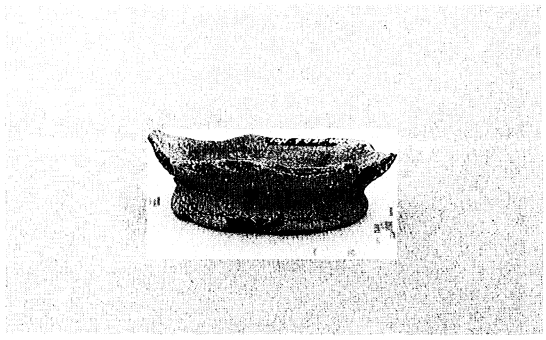


H-14-2



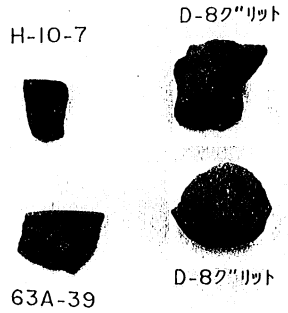
H-14-3

H-14-4

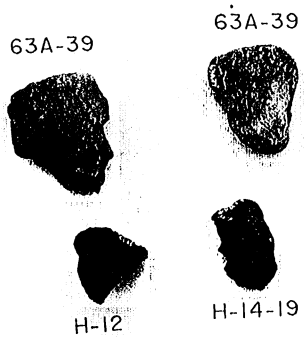


E-6-1

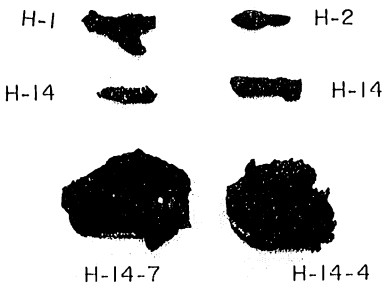
E-7-1



H－１０・D－８グリット・土師一括遺物



H－１２・１４・羽口一括遺物



H－１・２・１４・鉄器・鉄滓一括遺物

調査前現況（東より）

調査前現況（東より）

作業風景（東より）

作業風景（西より）

宅地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
若宮遺跡

平成元年１０月２７日　印刷
平成元年１１月１０日　発行
発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町６６４番地の４
編　集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町２１１番地の１
印　刷　上毎印刷工業株式会社